

2022年度名古屋外国語大学授業評価アンケート結果総括

FD 委員会作業チーム委員長
高 梨 芳 郎

2022年度の授業評価アンケート調査は、名古屋外国語大学FD委員会のもとで、原則として学部、大学院、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）の全授業科目を対象にして実施された。実施期間は、学部は2022年12月20日（火）～2023年1月16日（月）、大学院は2022年12月20日（火）～2023年1月16日（月）で、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）は2022年12月6日（火）～2022年12月19日（月）であった。アンケート調査結果は集計され、各教員に結果が知らされ、評価結果について授業者からのアンケートを記述式で提出していただいた。本報告では、今後の授業改善に資する目的で、受講生による授業評価アンケート結果に、授業者からの回答結果も加えて、授業評価結果を総括するものである。なお、授業評価アンケートの項目内容については、「授業科目別評価結果」を参照いただきたい。

1. 学生への授業改善アンケート調査結果

(1) 回答結果の概要

本授業評価アンケートは、受講者総数 31,226 名（学部 30,698 名、大学院 25 名、国際日本語教育インスティテュート 503 名）を対象に Web システムで実施し、回答総数は 10,881 件（学部 10,809 件、大学院 6 件、国際日本語教育インスティテュート 66 件）で、回収率（回答総数÷受講者総数）は 35%（学部 35%、大学院 24%、国際日本語教育インスティテュート 13%）であった。なお、2021年度の全授業についても Web システムで実施し、回収率（回答総数÷受講者総数）は 31%（学部 31%、大学院 31%、国際日本語教育インスティテュート 44%）であった。

(2) 個々の項目ごとの分析結果

① 授業満足度について

授業の満足度については、全授業で項目平均値は 4.3（5点法）（学部 4.3、大学院 4.5、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.4）であった。参考までに、2021年度の全授業での項目平均値は 4.3（5点法）（学部 4.3、大学院 4.8、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.6）であった。

学部については、外国語学部の学科ごとに見ても、英米語学科（専攻）4.3～4.6、フランス語学科 4.3、中国語学科 4.4 で、4 以上の高い満足度の数値であった。現代国際学部についても同様で、学科ごとに見ても、現代英語学科 4.2、グローバルビジネス学科 4.1、国際教養学科 4.2 で高い満足度を示す数値であった。世界共生学部世界共生学科も 4.3 で高い満足度であった。また、世界教養学部では、世界教養学科 4.2、国際日本学科 4.3 の高い満足度であった。科目系列等で見ても、ほぼ総て 4.0 以上の平均値で高い満足度であった。

一方、大学院については、総回答数の約 80%（6 件中 5 件）が 4.0 以上の回答であり、項目平均値は 4.5 の数値で、高い満足度が示された。また、国際日本語教育インスティテ

ュート (留学生別科)については、受講者数 503 名に対して回答数は 66 件であったが、総回答数の約 90% (60 件) が 4.0 以上の回答であり、満足度の項目平均値は 4.4 で、高い満足度であった。

②出席・受講態度・シラバスの活用について

これらの 3 項目は受講者が自分の出席状況・受講態度、シラバスの活用 (登録前・履修中) について評価した結果である。これらの項目についての評価結果は、全授業の項目平均値はそれぞれ順に、4.4、4.4、3.6 (いずれも 5 点法) (学部 4.4、4.4、3.6、大学院 4.7、4.8、4.8、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.1、4.5、4.3) であった。参考までに、2021 年度の全授業でのこれらの項目平均値はそれぞれ順に、4.6、4.5、3.6 (いずれも 5 点法) (学部 4.6、4.5、3.6、大学院 4.9、4.8、4.6、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.5、4.8、4.4) でおおむね同様の傾向がみられた。また、シラバスの活用は、2022 年度においても、出席や受講態度と比べれば低い回答傾向が見られた。

学部については、外国語学部では、学科 (専攻) ごとに見ると、出席、受講態度は 4 台 (それぞれ、4.3~4.5、4.4~4.7 の範囲) で、シラバス活用はほぼ総て 3 台 (それぞれ 3.4~3.7) であった。現代国際学部の各学科についても、外国語学部と同様で、出席、受講態度は 4 台 (それぞれ、4.3~4.5、4.3~4.4 の範囲) で、シラバス活用は 3 台 (それぞれ、3.6~3.8 の範囲) であった。世界共生学部においても同様で、出席、受講態度は 4 台 (4.3、4.4) で、シラバス活用は 3 台 (3.7) であった。また、世界教養学部も同様で、出席、受講態度は 4 台 (それぞれ 4.6 と 4.4、4.5 と 4.4) で、シラバス活用は 3 台 (3.8、3.8) であった。一方、科目系列等で見ても同様で、出席、受講態度は総て 4 台で、シラバス活用もほぼ総て 3 台であった。

大学院については、それぞれ、4.7、4.8、4.8 の平均値で、シラバス活用についても 4 台の評価であった。国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)についても、同様にそれぞれ、4.1、4.5、4.3 の平均値で、出席、受講態度、シラバス活用とも 4 台の平均値であった。

③授業進度、説明のわかり易さ、授業時間 (開始・終了)、熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮、授業レベルの適切性、授業への興味について

これらの 8 項目の評価結果については、項目平均値は全授業で 4.1~4.6 の範囲 (学部 4.1~4.6、大学院 4.2~5.0、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.2~4.7) であった。これらの中で、平均値が最も高いのは、ほぼ共通して、教員の熱意 (4.6~5.0) と開始・終了時間 (4.5~4.7) で、最も低いのは、ほぼ共通して、授業レベルの適切性 (4.1~4.4) であった。参考までに、2021 年度のこれらの項目平均値は、全授業で 4.2~4.6 の範囲 (学部 4.2~4.6、大学院 4.7~5.0、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科) 4.4~4.7) であった。

学部についても、同様に、外国語学部の学科 (専攻) ごとに見ると、総て 4 台 (各項目平均値の範囲は省略) であった。また、現代国際学部の学科については、3 学科ともほぼ総ての項目で 4 台であった。世界共生学部、世界教養学部も総ての学科で同様であった。科目系列等で見ても、4.0 以上の平均値の科目群がほとんどで、ほぼ高い評価結果であった。

大学院については、それぞれ、4.2~5.0 の平均値で、8 項目すべてについて高い評価結果となっている。国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)についても、4.2~4.7 の

平均値で、同様に、8項目すべてについて高い評価結果となっている。

2. 学生の授業改善アンケート調査結果に対する教員アンケート結果

受講生による授業評価結果について多くの方から記述式の回答をいただいた。ここでは、典型的な回答と判断できる記述内容についてごく一部を紹介する。

(1) 受講生からのアンケート結果の受け止め方

- ・授業の実施状況が客観的に反映されていると思う。
- ・今後も学生の気持ちの把握に努めながら授業改善を図りたい。
- ・講義科目であってもグループワークを求める声が多いことを再確認した。
- ・アンケートの回答内容よりも、回答率が低いことが問題であると真摯に受け止めている。

(2) 授業で解決すべき課題

- ・予習、復習を確実にを行うように指導する必要がある。課題の量や難度を適切にしたい。
- ・韓国語の学習経験者と未経験者が混在する授業で、適切な指導と評価の実施が難しい。
- ・講義でグループディスカッションを多く取り入れたが、受講者が70名以上の授業ではハイフレックス型授業の円滑な実施は困難である。
- ・文章読解と文法定着を目標とした授業で、事前学習の際に、禁止している翻訳アプリを使用している学生がいる。

(3) 授業での工夫

- ・反転授業の実施。
- ・できるだけ学生自身が調べ、それを他学生に発表することで、お互いに新しい発見があるように、参加型の授業にしている。
- ・実際のニュースや各国の演説など、生の情報に触れる機会を増やし、外交の実際を知ってもらうこと。
- ・Throughout this course I intentionally stress to students that we are not here to learn the right answers but rather to learn to expand our minds and think critically.
- ・When assigning pair or group work, it is important to pay attention to the English level and the personality of both/all students.

(4) FD への意見

- ・教員が大学の考えを理解し、スキルアップできる方策が充実している。
- ・文書形式で授業改善の方法を教えてくださいと空き時間に取り組みやすい。
- ・添削等の負担の軽減について知りたい。
- ・Ways to improve student involvement in course surveys need to be considered.

3. まとめ

学生による授業評価アンケート結果から、本学の2022年度の授業評価は、全体的に回答率の上昇は僅かであったが、大学全体、学部・大学院・国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）、科目系列ごとにおいても、従前と同様に概ね良好な結果が得られた。受講生によるアンケート結果に対する先生方の真摯な回答結果に示されているように今後も適切な評価を含めた授業改善の積極的な取り組みを全学的に進めていきたいものである。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	川原功司
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する調査結果は以下の7つに分類されている。分類の内訳と各回答数及び回答率は以下のとおりである。

1) 英米語学科における以下2)～6)の授業評価結果の総計(回答数1,355名、回答率48%)ただし、英米語・英語コミュニケーション専攻(回答数1,324名、回答率32%)

2) 英語基幹プログラム(PuT除く)(回答数362名、回収率70%)ただし、英米語・英語コミュニケーション専攻(回収率156名、回収率49%)

3) 専門ゼミナール(回答数180名、回答率35%)

専攻言語プログラム/専攻語学(PuTを除く)(回答数988名、回答率30%)

4) 専門科目群〔学科基盤〕

(回答数157名、回答率47%)

5) 専門科目群(学科基盤以外)(回答数509名、回答率33%)

6) PuT(回答数327名、回答率71%)

上記分類から、特に英米語学科科目である2)と3)、および学科科目である専門科目を含む4)5)を対象として項目ごとの分析をする。

2. 項目ごとの分析結果

◎ 専門ゼミナール

授業満足度の項目A-①は4.6と全体平均4.3が高いということを考慮しても高い評価になっている。また、授業内容に関わる項目は全て4点台後半と高い数字を出しているのは評価すべき点である。全体の数値としては理想的とも言えるが、回収率が35%であるということ踏まえれば、授業に主体的に取り組む学生がアンケートに答えた結果でしかなく、あまり積極的ではない学生がどのような意見を持っているのかは不明確なままである。

◎ 専攻言語プログラム

全体的にほとんどの項目において、大学全体の平均値と同等の結果となっている。シラバスの活用についての項目以外はすべて4.1点以上の平均値を得ている。

教員の熱意を問う項目では4.5点と高評価を得ている。この評価から、教員の授業に対する熱心さと語学学習に必要な積極的授業参加の配慮について学生の満足度が見られる。4年生を除き必修科目である点、および学科の全体数を考慮すると、毎年この平均値を維持しているのは、英米語学科における語学プログラムの成果および、教員の努力が大きく影響していると考えたいが、アンケートの回

収率が 30%であるということを考えると、やはり積極的ではない学生の本音が知りたいところである。

◎ 専門科目群〔基盤〕 / 〔応用〕

学科基盤の A-①で 4.4、応用では 4.2 であり、全体的には、ほとんどの項目において 4.1 点以上の評価を得ていることから、受講生が概ね好意的な評価をしていることがわかる。平均点より下の項目は「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。」の回答で、平均点より 0.3 点低かった。こちらも回収率が 30%強ということを考えると、積極的ではない学生の本音は分からないままである。

3. 今後の授業改善に向けて

概して授業評価アンケートの結果が高い本学だが、アンケートの結果だけは本年度も良好であった。しかしながら、アンケートの回収率が過半数に満たないものが多く、今後はアンケートの採り方について考えていかなければならないかもしれない。FD の本義からは外れるが、授業時間ないしは試験時間の一部を使用することも場合によっては考えないといけないかもしれない。

教員コメントによれば、学生からは概ね高評価のコメントが寄せられているようである。ただ、最近の学生は否定的なコメントを誰に対しても言わなくなってきたという傾向があるようなので、言いにくいことが教員に伝わってきていないこともあるかもしれない。

教員コメントによれば、学生による課題の負担感が大きい、最近は欠席が多いといった課題が出てきているようである。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科 英語教育専攻	担当者	矢後 智子
------	--------------	-----	-------

1. 調査結果の概要

英米語学科英語教育専攻に関する調査結果は以下の科目群についてである。それぞれの回答数および回答率は以下の通りである。

- 1) 学部共通英語基幹プログラム (PUT を除く) (回答数 25 名、回答率 54%)
- 2) 専攻言語プログラム (回答者数 100 名、回答率 48%)

上記の2プログラムについての回答から概ね授業に対する満足度および評価は高いことが判る。全学的な評価と同じような傾向を示しており、どちらのプログラムもすべての質問において全学の平均以上の評価をしている。特に授業への参加態度と4技能の積極的な活用については高い評価をしており、英語習得に関して積極的な姿勢が見られる。一方で授業外の学習(予習・復習および教科書・参考書の使用)についての評価から、学生の自主的、自律的な学習に対する積極性は決して高いとは言えないように感じる。またシラバスの利用は全学平均と同様に低い評価であり、シラバス等を利用し計画的に学習を進める学生の育成が望まれる。しかしながら今回の調査の回答率は50%前後にとどまっており、更に回答率をあげて調査を行う必要もあると考える。

2. 項目ごとの分析結果

○ 英語基幹プログラム

全体的に見て全体平均より高い値を示しており、授業の満足度(A-1)では否定的な意見はみられなかった。また授業への参加態度(B-①～⑥)に関しても、シラバスの利用(B-③)を除き概ね前向きに取り組んでいる様子が見られる。授業の内容や教員の授業に対する姿勢(C-①～⑥、D-①②)に関しても全般的に8割以上の学生が肯定的な回答を示している。しかしながら「とてもそう思う」と回答している学生数は5割から6割の間にとどまっており、若干面であるが否定的な意見も見られる点が懸念される。

○ 専攻言語プログラム

すべての質問において全体平均より高い評価をしていることが判る。授業への満足度(A-1)については125名の回答者数中116名(93%)の学生が満足している一方で、若干名(3名)であるが満足していないと回答した学生がいることが気になる点である。その理由については授業内容についての結果(C-①～⑥、D-①②)に原因があると考え、満足度の低い要因の特定にはいたらないが、教員の授業への取り組み等について常に見直しをしていく必要性を感じる。また、授業のレベルを適切であったと考える学生は「とてもそう思う」で53%と半数程度にとどまっており、更に「レベルが高い」と感じている学生もいることから、授業改善とともにそのような学生への学習サポートも必要なのではないかと考える。

3. 今後の授業改善に向けて

授業に積極的に参加する学生は多い一方で自主的に学習に取り組む姿勢には欠ける印象を受ける。いずれの評価も確実な要因の断定は難しいが低い評価が示された項目については専攻内で情報を共有し今後の改善に向けた建設的な議論に役立てたいと考えている。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井由紀
------	---------	-----	------

1. 調査結果の概要

フランス語学科の全体的な集計結果については、四学部全体の全授業にかかわる集計結果を示す「全体平均」と比べた場合、「満足度」、「分かりやすさ」、「授業の進度の適切さ」、「興味が持てたかどうか」はいずれもフランス語学科の平均値と同値である。このことから、総じて平均的な評価であると分析できるように思われる。2021年度の集計結果でもほぼ同様の結果を示していたことを考慮すると、今回2022年度の結果としては、前年度と比べ、良くも悪くもよりも評価に大きな変化が見られなかったと捉えることができそうである。

一方で、「開始時間、終了時間の遵守」については「全体平均」と比べた場合、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.1ポイント下まわっていること、また、「授業を履修して目標とされている外国語の能力を伸ばすことができた」については、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.1ポイント下まわっていることが指摘できる。ただし、「授業により履修した言語の文化へ興味を持つことができた」では、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.2上回っていることが確認できる。このことから、一年次から基本的には初習言語としてフランス語学習に大変興味を持って取り組んでいるものの、外国語能力の習得度合いにかかわる学生自身の評価については、やや消極的な傾向を示しているのではないかと考えられる。

また、系列ごとに見た場合、「満足度」に注目してみると、「専門ゼミナール」については、学科平均が全学の「全体平均」を0.3ポイント上回り、「PUT、A-PUT」では学科平均の方が全学の「全体平均」を0.2ポイント上回る結果を示している。「専攻言語プログラム」と「専門科目群」については、学科平均と全学の「全体平均」は同じ数値を示している。これに対して一年次生を対象とする「学科基盤」科目では、学科平均が全学の「全体平均」を0.9ポイントも下回る結果を示している。従って、「満足度」に限定した学科の傾向としては、「専門ゼミナール」、PUT・A-PUTを含む「専攻言語プログラム」、「専門科目群」は総じて平均以上の好評価を得ているが、「学科基盤」科目の評価が芳しくないことが指摘できる。

2. 項目ごとの分析結果

「専攻言語プログラム」では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」、「学生が積極的に授業参加できるような配慮」の項目においては、いずれも「全体平均」と同じ数値を示し、「指定された教科書等を十分に活用した」、「授業により履修した言語の文化への興味を持つことができた」では学科平均が「全体平均」を上回っている。基本的には1年次から初習言語として取り組むフランス語の授業を段階的に履修できるよう学科でプログラムを組んでおり、学科内のチームティーチングや情報共有等の効果が反映されているのではないかと考えられる。前回の分析と比較すると、全体としては大きな変動はないと思われる。

一方で、「授業の進度の適切さ」については、フランス語学科の数値が大学全体の平均値よりも 0.2 ポイント下まわっていたのに対し、今回は全体平均と同値であり、やや改善が見られた。

また、「専攻言語プログラム」の一部でもある「PUT」「A-PUT」の結果に着目すると、「シラバス活用」の質問項目を除く、他のすべての項目において「全体平均」を上回っていることから、「PUT」「A-PUT」を含む「専攻言語プログラム」については、総じて学生の評価は高い。

「専門ゼミナール」では、喜ばしいことに全体的には学科平均が全体平均を上回る好評価が多く、「満足度」、「分かりやすさ」では「全体平均」よりも 0.3 ポイント、「興味が持てたかどうか」では「全体平均」より 0.4 ポイント高い評価を得ている。ただし、この「専門ゼミナール」においても、やはり「開始・終了時間」においては、「全体平均」を下回る結果が示されているため、学科内で今一度、注意喚起を促す必要がありそうだ。

この他、基本的には 1 年生が履修対象である「学部共通英語基幹プログラム」では、前回に比べると、全体的な数値は微減している項目が多く、大抵の質問項目において、いずれも「全体平均」と同値か、やや下回る結果となった。

3. 今後の授業改善に向けて

2022 年度 2 期の結果を総合的に評価すると、学科の評価としては総じて平均的か平均を上回る評価ではあるものの、1. と 2. で述べたように、系列によって全学の「全体平均」よりも低い評価が示された科目群が確認され、「開始・終了時間」については多くの科目群で「全体平均」よりも低い評価が示された。全学の「全体平均」よりも低い評価が示された要因の断定は難しいが、該当する「学科基盤」科目については学科内で情報を共有し、今後の改善に向けた建設的な議論に役立てたいと考えている。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	中国語学科／センター	担当者	岩佐 一枝
------	------------	-----	-------

1. 調査結果の概要

全体を通して、全体平均を上回る評価結果が得られており、本学科において効果的な講義が実施されていることが確認できた。これには、学科教員の熱意と授業内容や方法についての様々な工夫が背景にあると推察される。(教員アンケートの結果参照。)

また、本学科の授業を通じ、学生が言語文化に対しポジティブな学習効果を得ていること、専攻言語の運用能力が向上していること、複言語の習得に励み、その関連地域への興味も高まっていることも、アンケート結果から明らかとなっている。

以上のことから、本学科が目指す教育目標は概ね達成できたと判断できる。今後も、学生が各講義内容に更に興味を持ち、積極的に授業に参加し、自主的に学習に臨めるよう、学科教員全体で研究・教育に励みたい。

2. 項目ごとの分析結果

(取り上げる項目は任意です)

B-③ 評価の値は平均と同じ数値ではあるものの、シラバスを更に学生に活用してもらえるよう、今後積極的に呼びかけていきたい。

B-⑥ 授業を通して、積極的に「聞く・話す・読む・書く」の技能の向上を目指し、取り組んでいる学生が多くいることがわかった。(学科平均 4.6, 全体平均 4.3) また、これと関連し、D-3にあるように、実際に学生の能力が向上していることも明らかとなった。今後も更に学生の能力向上を念頭に、学科全体で学習をサポートしていきたい。

3. 今後の授業改善に向けて

教員アンケートにあるように、今後は授業内で受講生から積極的に意見が出て来るように促していくこと、また、受講生間の基礎知識にばらつきがある授業では、これを解決し、より発展的な講義内容を実施していけるよう授業方法や教材など種々の工夫を凝らしていきたい。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	大浜賢一郎・原慎之介
------	-------------	-----	------------

1. 調査結果の概要

全体として回収率が低い（約27%）。学科に共通する傾向として、授業満足度は平均よりわずかに低いが、受講態度については全学、学部平均と概ね同水準であった。授業方法については、進度が早いと感じている学生が多い。また、授業のレベルが高いと感じている学生がやや多い。

授業科目の区別にみると、英語系科目は授業に対する満足度が高く、教科書の利用についても高い値であった。一方で専門科目については概ね学科平均に準ずる値であったが、教科書の利用が低い値となっていた。

2. 項目ごとの分析結果

回収率について

のべ受講者数814人に対して218件の回答があり、26.8%の回収率であった。学部平均の回収率が39%であることを踏まえ、回収率を高めるよう取り組みたい。

全体集計

A（授業満足度）

全体平均4.3ポイント、学部平均4.2ポイントに対して学科平均は4.1ポイントであり、やや低い値となっていた。

B（受講態度）

受講態度に関する項目で、全体平均と大きく乖離する項目は見られなかった。

学部平均と比較すると、シラバスの活用がやや高く教科書等の活用が低い値であった。

C（授業方法）

Cの項目に関しては、全項目において学科平均が全体・学部平均を0.1-0.3ポイント下回っている。

C-①-1 授業進度について、全体・学部4.3に対し4.0とやや低い値であった。早すぎると感じている学生が多くみられる。

C-⑥ 積極的な参加への配慮について、「そうは思わない」と回答した学生が「あまりそうは思わない」を上回っている。学科として工夫したいと考える。

D（授業への関心）

Dの①②両項目において、学科平均が全体平均を0.3ポイント下回っている。

D-① 授業レベルについて、少し高いと回答している学生が最も多い。

区分別

・英語基幹プログラム

B-⑤ 基幹プログラムについては、教科書の活用に関する値が比較的高い。

- D 学科平均と比較すると、授業レベルおよび興味についてやや高い値であった。
- PuT
 - A 学科平均 4.1 に対して 4.6 ポイントと非常に高い。
 - B 全体的に学科平均よりも高く、特に④予習復習についてしっかりと行っている様が見受けられる。
 - C 全体的に学科平均よりも高く、特に①進み具合、②わかり易さ、⑥参加への配慮について顕著に高い値であった。
 - D ①②いずれも学科平均を大きく上回っている。
 - Basic English 等
全体的に学科平均と同程度であった。教科書の利用についてはやや高い値であった。
 - アカデミック・スキルズ
全体的に学科平均と同程度かやや高い値であった。
 - 専門基礎科目
全体的に学科平均と同程度かやや低い値であった。
 - グローバルビジネス科目等
全体的に学科平均と同程度であった。教科書の利用については学科平均よりも 0.9 ポイント低い値であった。

3. 今後の授業改善に向けて

アンケートの回収率については、積極的な呼びかけや時間の確保などを通じて改善を図りたい。

英語科目の回答においてポイントが高かった理由として、専門科目に関する満足度が相対的に低いとも読めるが、学年ごとの回答の傾向と一致している可能性も指摘できる。1年生の回答が多い科目は比較的高い値となっており、2年生以降の回答が多い科目は低い値となっている。母数が少なく判断が難しいが、グローバルビジネス学科では専門科目の殆どが2年生以降に開講されることから、英語・専門科目を問わず学年を経るごとに満足度がやや低下傾向にあり、結果として専門科目の値が低くなっていると見ることもできる。いずれにせよ、高学年の満足度がやや低いという点は問題視すべきである。なお、専門科目において教科書の利用率が低い点については、経営・経済系の専門書が高額であり教科書として指定できず、教員が工夫して授業を行っている結果であると考えられる。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	現代英語学科／センター	担当者	吉見 かおる
------	-------------	-----	--------

1. 調査結果の概要

本学科の授業改善アンケート回収率は昨年度の34%を下回る31%であったが、学科全体の平均値は全学平均値と同じかそれを少し上回っているため、授業に対する満足度は全体として安定していたと考えられる。回答者数の改善は今後の課題であるが、「真剣な態度で授業を受講した」「授業に大変興味を持てた」の項目に対し、前向きに評価した学生が多くいたことは高く評価できるであろう。一方、全体平均よりも数値が低かった項目は昨年と同じく、「授業に対する予習、復習などを積極的に行った」に関してであった（全体3.9、学科3.7）。教員の自由回答欄にある「授業を実施していく上で、解決すべき課題があれば」の項目でも、「予習、復習をきちんと行うよう促す必要があると感じている」「一方的な講義でなく、学生の参加をより積極的に求めるようにしたい」等、学生の学習意欲を引き出す必要性を訴える意見が多く報告されていた。この点の共通認識と実際の取り組みの工夫が今後の課題である。

2. 項目ごとの分析結果

以下、回収率が高く、学生の満足度も高かった科目群を挙げる。

① Lecture in English (回収率 56%) :

Lecture in Englishはネイティブ教員がオールイングリッシュで実施する講義で、1年生、2年生が受講するプログラムである。アンケート結果ではほぼすべての項目で平均値を上回り、特に教員への評価が高いことが明らかとなった（C-② わかりやすく説明していた→4.5、C-④ 熱意をもって取り組んでいた→4.8、C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた→4.4）。本学科では、考える力に必要な様々な知識を英語を通して学ぶことを1年次から目標に掲げており、本科目群がそのスキルの養成クラスとして機能していると読み取ることもできるであろう。実際、担当教員はそれぞれの専門分野を授業内で扱いながら学生たちのクリティカル・シンキングを英語で養成している。また2年前から学生たちの興味関心に沿って授業が選択できるように整備したことや、さらなる高度な英語力を目指す学生に特化したクラスを設定したことも（クラスレベルを提示するがどの学生も受講が可能）、学生の満足度に繋がったとも推察できる。

② Academic Skills (回収率 53%) :

本学科のAcademic Skillsは他学科と異なり、2022年度から初めて専任教員が担当するようになり、2021年度までは非常勤の先生方から指導いただいていた（学生評価も毎年非常に高い数値を示していた）。2022年度のアンケート結果は、概ね平均を上回っているため、総合的に問題はなかったと考えられる。特にC-③「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」の項目では4.9が示されており、これは担当教員一同の協働の結果が反映されたものとも推察できる（教材選択、指導案の確認等、担当教員同士で話し合いの機会を定期的に設けた）。2022年度のFD研修の中でも報告されたように、現在実施している本学科のAcademic Skillsは、大学における学びの基礎となるアカデミック・スキルズ学習だけでなく、学術的な英文に対応できる英語力の基礎固めも含んでいるため、今後も初年度教育の重要性を鑑

みながら、効果的な指導案とその方向性をさらに模索、検討していくことが課題である。

3. 今後の授業改善に向けて

授業アンケート結果により、本学科の授業満足度は高い傾向にあることがわかった。今後は、学生の授業満足度が単に受動的なもので終わってしまわないよう、本来の学びにおける達成感に繋げていけるような授業内での取り組みと工夫も必要となるだろう。また情報の信頼性を高めるために、回答率を上げることも重要な点である。

2023年7月提出

授業改善のためのアンケート調査（2022年度）－学科分析結果

組織名称	国際教養学科	担当者	根無一信
------	--------	-----	------

1 調査結果の概要

調査結果を見ると、「B-①この授業には、休まず出席していた」「B-②この授業には、真剣な態度で受講した」という2項目においては全体的に高い数値を示しているが、「A-①この授業は、全体として満足であった」は全体平均よりも低いものが多かった。そこで今回はA-①とB-①・B-②の関係に着目しつつ、

- ・ A-①と B-①・B-②がいずれも全体平均を越えている科目
- ・ A-①と B-①・B-②がいずれも全体平均を下回っている科目
- ・ A-①が B-①・B-②よりも低い科目
- ・ A-①が B-①・B-②よりも高い科目

以上の4パターンについてデータを分析し、国際教養学科の特徴や問題点を明らかにしたい。

2 A-①と B-①・B-②がいずれも全体平均を越えている科目

- ・ PUT（全15項目中14項目で全体平均以上）
- ・ 国際教養科目群（全14項目中9項目で全体平均以上）

これらの2科目においてはおおむね学生の期待に応える授業が実施されていると見てよいだろう。その他の項目においても概ね高評価である。特にPUTは1年生が受講を楽しみにして入学してきた科目であるだろうし、国際教養科目群では、国際教養学科生としての専門的知識を学ぶことができている実感をこのデータが示していると思われる。

3 A-①と B-①・B-②がいずれも全体平均を下回っている科目

- ・ 英語基幹プログラム（全14項目中9項目で全体平均以下）
- ・ Applied English（全17項目中13項目で全体平均以下）

これらの科目に関しては全体平均を下回ってはいる項目が多いが、数値としては全て 0.1～0.2 の範囲内であるから、実質的には学生から全体平均程度の満足度が得られていると見てよいだろう。

4 A-①が B-①・B-②よりも低い科目

- ・アカデミックスキルズ（全 14 項目中 9 項目で全体平均以上）
- ・専門基礎科目（全 14 項目中 11 項目で全体平均以下）
- ・LAGSE（全体平均と比べて特に特徴がない）
- ・エリアスタディーズ（全体平均と比べて特に特徴がない）

まず、アカデミックスキルズにおいては、満足度が低いもののそれ以外の項目で評価が高い点は強調されるべきだろう。国際教養学科生は特にアカデミックスキルズを通して大学での学びの意義や方法を身に付けていくことになるので、そういう学科の方針がこのデータに反映されているといえるだろう。満足度の項目が平均より 0.2 低い、そこに大きな差を読み込むよりは、他項目への評価の高さを評価し、全体としてこの科目の役割は無事に果たされていると考えるべきであろう。

専門基礎科目においては熱心な出席率（全体平均 4.4 に対して 4.6）と相反するように満足度が低く（全体平均 4.3 に対して 3.0）、また B-②の「真剣度」も低い（全体平均 4.4 に対して 3.4）。あまり興味を持たないまま仕方なく出席している学生が多いといえるだろう。

この科目の数値は毎年同様の傾向を指名しているので改善の必要があるともいえるが、より根本的には、高校までの授業内容と大学における専門科目の内容とのギャップの大きさが、こうした反応として表面化しているのではないかと考えられる。しかし、この科目に真面目に出席して実力をつけているからこそ、2 年次以降の国際教養科目群を高い満足度でもって受講することが可能なのではないだろうか。専門知識習得のための基礎力を身に付けるための「苦しい修業期間」が 1 年次の専門基礎科目であるといってよいだろう。

5 A-①が B-①・B-②よりも高い科目——まとめえにかえて

- ・なし

A-①が B-①・B-②の平均値よりも高い科目はなかった。出席もせず真剣度も低い科目に満足を覚えるはずがない、という当たり前の結果をデータは示しているといえる。ということは、高い満足度を得るためにはまずは学生の出席率を高め、真剣度を高める必要がある、ということである。こういったごく基本的な方針の重要性を改めて確認する必要があるだ

ろう。この気づきを本分析のまとめにかえたい。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界共生学科	担当者	宮川、西村
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

昨年と同様、世界共生学科全体の質問回答集計表から、どの質問項目についても、大半の学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。全学の平均と比較した場合にも、平均値について特に大きな差異はないことがわかる。B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」という項目については、「普通」「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と回答した学生の割合が半数近く（計 45%）に上ることから、シラバスの活用の仕方が学生および教員の間で共有されていないということがうかがえるが、必須などあらかじめ履修登録されている科目については、「登録前」の利用は期待できないことから「あまりそうは思わない」「そうは思わない」が多い可能性も考えられる。講義形式が多い科目群（リージョナル・スタディーズ、コース科目／グローバルメディア科目）では、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、B-⑤「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」の回答の平均が全体平均を大きく下回っている。これらの科目において英語や複言語科目に比べて自宅学習の動機付けが不十分である可能性が考えられる。今回の調査ではこれらの科目について、改善を強く要する状況は見受けられなかったものの、学部独自の科目群であることから、授業への関心や意欲を高める工夫について引き続き考えていく必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

① 英語基幹プログラム

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」については「とてもそう思う」を選択した学生が多いことから、教員の指導に対する学生の評価が非常に高いといえる。B-⑤「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」については未答数が3割に及ぶが、理由は分からない。

アンケート回収率は60%である。

② PUT

①「英語基幹プログラム」と同様、どの項目も「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の回答がほとんどを占めている、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価が全体の平均値と比べても非常に高いといえる。

アンケート回収率は 55%である。

③ 専攻言語プログラム

B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」という項目では、全学平均と比較して 0.4 ポイント上回る高い数値が出ている。B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか 1 つ以上について積極的に行うようになった」といった項目でも、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多く、全学平均をやや上回る。学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価も、全学平均と比較して 0.2~0.3 ポイント高い数値が出ている。

他方、この授業でも、B-⑤は半数が未答である。D-④「この授業により、複言語またはエリアランゲージで履修した言語の文化への興味をもつことができた」については、複言語やエリアランゲージとの関係性が想定できずに未答という可能性も考えられる。そもそも質問の意図が学生に伝わっているのか、検討が必要かもしれない。

アンケート回収率は 38%である。

④ アカデミックスキルズプログラム

B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」では、「とてもそう思う」「ややそう思う」が大半を占め、学生がこの授業を重要だと考え、授業の予習・復習に取り組んだと解釈することができる。

一方、A-①「全体として満足であった」については全体平均よりマイナス 0.6 ポイントと顕著に低い。内訳は「とてもそう思う」「ややそう思う」が過半数 (55%)、「普通」が 32%、「あまりそう思わない」が 12%であった。D-①「この授業に大変興味をもてた」については「とてもそう思う」「ややそう思う」が過半数 (53%)、「普通」が 29%、「あまりそう思わない」が 17%であり、全体平均より 0.6 ポイント低い結果となっている。

A-①、D-①の結果と関連する可能性が伺える項目としては以下が挙げられる。

C-②「教員はわかりやすく説明していた」では「普通」が 20%、「あまりそう思わない」「そう思わない」が合わせて 7%であり、全学平均を 0.4 ポイント下回っている。

D-①「授業のレベルは自分にとって適切であった」について、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と答えた 7 名 (12%) のうち、レベルが「高すぎる」「少し高い」と答えた学生が 5 名、未回答が 2 名であった。

C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」では「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と答えた学生が 5 名 (9%) いた。

C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」では全学平均を 0.8% 下回っている。

以上から、授業の満足度に関しては、授業のレベルが高いと感じる学生がいることを想定し、教員が説明や授業参加の促し方に工夫を加える必要があると考えられる。また、授業時間の厳守にも努める必要がある。

アンケート回収率は 77%である。

⑤ リージョナルスタディーズ

C-②「教員はわかり易く説明していた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」といった項目について、D-①「授業のレベルは、自分にとって適切であった」について、全体平均にほぼ等しい学科平均が得られている。一方、A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まず出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、D-②「この授業に大変興味を持てた」については全体平均を0.2~0.3ポイント下回っている。ただし、これら3項目について「あまりそう思わない」「そうは思わない」の回答は6%であり、顕著に高いとは言えない。目につくのは、B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、B-5「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」の項目で、全体平均をそれぞれ0.4、1.0ポイント下回っていることである。授業内容への関心を高める資料の提示や自宅学習での取り組みの評価によって、授業への関心や積極性を喚起するなど、工夫の余地があるといえるかもしれない。

アンケートの回収率は29%と低く、本アンケート結果がリージョナルスタディーズ全体への評価と必ずしも合致しない可能性はある。

⑥コース科目／グローバルメディア科目

A-①「この授業は、全体として満足であった」、D-②「この授業に大変興味を持てた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」の項目で、全体平均にほぼ等しい学科平均が得られている。教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価も全体平均にほぼ等しい。授業内容、教員の態度ともに全体として、「とてもそう思う」「ややそう思う」に回答が集中しており、おおむね順調に授業が行われていることが見てとれる。

一方、前項のリージョナルスタディーズと同様、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、B-⑤「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」については全体平均をそれぞれ0.2、0.7%下回っている。学習意欲を高める教材の効果的な活用に改善の余地があると言える。

アンケートの回収率は46%である。

3. 今後の授業改善に向けて

リージョナルスタディーズ、コース科目／グローバルメディア科目は授業のほとんどが講義形式で行われているが、今後は学生が予習復習を通して、積極的に授業に関心を持てる工夫をするとともに、授業内でも学生が参加できるような仕組みを取り入れていくことも必要と考えられる。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	石田聖子
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

すべての系列の科目で「とてもそう思う」と「ややそう思う」の選択数が多く、全体として満足度の高い授業が提供されていることがうかがえる。

ただし、アンケート回収率はPut、アカデミックスキルズで50%台、英語基幹プログラム（Put 除く）で30%台、その他科目では10%台となっている。そのため、結果は参考程度に留めておく必要があるだろう。

2. 項目ごとの分析結果

（取り上げる項目は任意です）

✓ 「専門ゼミナール」

→ すべての項目で高い数値が出ており、満足度は非常に高いといえる。受講生自身が当該科目の重要性を意識し、積極的に取り組んだことがうかがえる。

✓ 「英語基幹プログラム」

→ Put、Put 以外ともに満足度は高い。とくに能動的取り組みを問う質問項目群において高い数値が出ているため、受講生自身が熱心に取り組んだことがうかがえる。

✓ 「アカデミックスキルズプログラム」

→ 全体的な満足度は決して低くないものの、他の系列の科目に比べると満足度はやや劣る。しかし、「休まず出席した」「真剣な態度で受講した」で高い数値が出ており、受講生自身が積極的に取り組んだことがうかがえる。

✓ 「コース科目」

→ 全体的な満足度は決して低くないものの、他の系列の科目に比べると満足度はやや劣る。他の系列の科目に比べて、学びへの意欲が低いことがうかがえる。

3. 今後の授業改善に向けて

－ 英語関連科目に比べて、教養科目への意欲や関心がやや低い傾向がみられる。教養を学ぶ重要性をより積極的に伝えていかねばならない。この点について2023年度には、2020年度以降コロナ禍のため縮小開催されていた「教養セミナー」が本格的に実施される予定のため、その効果に期待したい。

－ 英語科目や専門ゼミナールへの満足度が高いが、一クラスが少人数であることと関連しているのではないか。実際にクラス人数の多いコース科目では傍観するばかりの学生の姿も散見される。クラス人数にかかわらず能動的に授業に参加する姿勢を培う必要があるだろう。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

※「2022年度2期授業評価アンケートの集計結果および分析」

組織名称	国際日本学科	担当者	齋藤 絢
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

本調査は2022年2期の授業評価アンケートの集計結果について分析することを目的としている。アンケートの実施期間は2022年12月20日（火）～2023年1月16日（月）の授業期間の最終2週である。世界教養学部国際日本学科全体の受講者数392名、うち148名が回答し、回答率は38%であった。

2. 項目ごとの分析結果

本アンケートの主な質問項目を、①国際日本学科生の授業への満足度、評価等と、②学習態度に関する評価等に分けて以下に分析する。

国際日本学科生の授業の満足度、評価の平均

国際日本学科全体の集計では、ほとんどの質問項目において、全学平均とほぼ同様の結果となった（表1参照）。全科目の学科平均および科目群ごとの学科平均を全学平均と比較して数値が高0.2以上高かったものを青色掛け、低かったものを黄色掛けで示してある。

表1 国際日本学科生の授業評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	A①全体として満足であった	C②教員はわかりやすく説明していた	C④教員は熱意を持って取り組んでいた	C⑤授業中の私語には適切な処置が執られていた	C⑥学生が積極的に授業参加できるよう配慮されていた	D①レベルは自分にとって適切であった	D②大変興味を持てた
全学平均	4.3	4.4	4.6	4.2	4.3	4.2	4.2
学科全体	4.3	4.3	4.6	4.1	4.4	4.0	4.4
専攻語学プログラム	4.2	4.2	4.6	4.0	4.3	4.0	4.2
英語基幹プログラム [PUT 以外]	4.1	4.3	4.5	4.3	4.2	3.9	4.0
英語基幹プログラム [PUT]	4.6	4.6	4.9	4.2	4.8	4.3	4.7
世界教養ブリッジ科目・コース科目・日本語教育プログラム、教職	4.4	4.4	4.8	4.2	4.5	4.1	4.5
アカデミックスキル	3.6	3.7	4.0	3.7	3.9	3.5	3.5

ズプログラム							
--------	--	--	--	--	--	--	--

まず、アンケート項目別に、学生の授業満足度と授業評価の状態について分析する。

授業の満足度と授業評価をはかる質問項目「A-①授業全体の満足度」では、どの科目系列においてもアカデミックスキルズプログラムを除いては比較的全体の平均を上回っている。

教員の教授活動については、教員の解説の難易度や説明力をはかる項目として「C-②教員はわかりやすく説明していた」を見ると、全体の平均値とほぼ同等、あるいは若干上回っている状態にある。学習環境への配慮として「C-⑤授業中の私語には適切な処置が執られていた」、「C-⑥学生が積極的に授業参加できるよう配慮されていた」の項目についても同様の傾向にある。

教員の教授活動の熱意に関する項目「C-④教員は熱意を持って取り組んでいた」は学科系列科目のとりわけ基盤科目、コース科目、日本語教育プログラム（自由選択科目）や教職科目で高い数値を示している。また学生自身に対する受講時のモチベーションや教育到達目標に対する自身の受講レベルへの意識を計る項目として、「D-①レベルは自分にとって適切であった」「D-②大変興味を持てた」をみると、自身の受講レベルに対する意識が全体的に低い結果となっている。特に、アカデミックスキルズプログラムは、全体の平均が 4.1 であるのに対して、学科平均が 3.5 とかなり差が開きがある。また、授業に興味を持てたかどうかという点については、英語基幹プログラムで全体の平均を若干下回ったことと、ここでもまたアカデミックスキルズプログラムの数値の低さに懸念を抱かざるを得ない。

次に科目系列別に状態をみると、英語基幹プログラム（PUT）は全体平均値 0.2 以上上回っている評価が多く、学科生全体が満足して安心して受講できる環境が築かれているのではないかと考える。また、世界教養ブリッジ科目・コース科目・日本語教育プログラムへの満足度と授業評価も全体の平均を下回ることなく、比較的授業内容や教授方法など、評価を得ていることが分かる。一方、全体の平均あるいはそれを下回る傾向にあるのが専攻言語プログラムであり、また、アカデミックスキルズプログラムへの満足度と授業評価は全項目全学平均を大きく下回る結果となっている。国際日本学科の専攻言語は日本語であるが、英語の語学運用能力の向上も学科カリキュラムとして大切に捉えられている。その点で、英語基幹プログラム（PUT）に対する満足度が高いことは学生の言語力の向上とコミュニケーションの向上に繋がっていくものと考えられる。アカデミックスキルズプログラムの低評価については、どのような問題点があるのかを考えてみた時に、まず教員が学習環境を良好に保つ点において私語を適切に処置できないことは改善を求めたい。もし学生にとって理解が追いつかない難易度の高い内容を扱っている場合には、学生の状況にあった説明・解説が必要であろう。教員の説明の状態については、全体の平均 4.4 に対して、学科の平均が 3.7 であり、他の質問項目のなかでも極めて低い。内容に対する理解が難しい場合には、授業に対する意欲も低下してしまうことも十分に考えられる。以上の点から、アカデミックスキルズプログラムの授業運営の状態について、とりわけ学生の理解度を中心に慎重に状況分析を進めていくことが必要である。

②学習態度に関する評価等

学習態度に関するアンケート項目でも、学科平均は全学平均とほぼ同様の結果である（表 2 参照）。全科目の学科平均および科目群ごとの学科平均を全学平均と比較して数値が高 0.2 以上高かったものを青色掛け、低かったものを黄色掛けで示してある。

表 2 国際日本学科生の学習態度評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	B①休まず出席していた	B②真剣な態度で受講した	B③シラバスを活用した	B④予習・復習などを積極的に行なった
全学平均	4.4	4.4	3.6	3.9
学科全体	4.4	4.4	3.8	3.9
専攻語学プログラム	4.4	4.3	3.6	3.7
英語基幹プログラム [PUT 以外]	4.2	4.2	3.5	4.2
英語基幹プログラム [PUT]	4.0	4.7	2.9	4.1
世界教養ブリッジ科目・コース科目・日本語教育プログラム、教職	4.4	4.5	3.9	3.9
アカデミックスキルズプログラム	4.3	3.9	3.1	3.1

まず、学生態度評価において、出席率を見てみると、英語基幹プログラム PUT、PUT 以外ともに若干平均を下回っている。他の科目系列を見ても英語は出席率が低い状態にある。上記の授業評価については非常に高い数値を示したが、学生たちは授業を欠席した分どこかで挽回できるよう工夫があったのだろうか。予習・復習など積極性についてみると、PUT と PUT 以外の英語基幹科目双方において、学生が意欲的に取り組んでいることが分かる。シラバスは十分活用できていると言い難いが、真剣に受講しようとする意識がこの調査結果からうかがえる。シラバスの活用という点では、基盤科目やコース科目

、プログラム関係の科目は数値が高く示されている。講義形式、演習形式、また教員の授業方法も多様であり、学生はそのことをよく捉えシラバスを確認する習慣がついているのではないかと考える。特に、学科専門科目はプレゼンテーションの頻度や課題量も多く、学生は計画性をもって学習をこなしていかなければ安定した学習環境を保つことが難しいことも背景として考えられる。

アカデミックスキルズプログラムでは、学生態度評価についても数値が際立って低い。上述の通り、授業運営の状態について、とりわけ学生の理解度を中心に、なぜ予習と復習の時間を十分に確保しようとならないのか、あるいは確保できない状態にあるのか、この点を慎重に状況分析を進めていくことが必要と考える。

3. 今後の授業改善に向けて

本調査の分析においては、次の三点が明らかとなった。一つは、英語基幹科目に対する学生の満足度と授業評価が高く、学生が意欲的に学習に取り組んでいるという点である。また学生態度の評価も比較的良好であり、学習環境として教員と学生との双方のコミュニケーションがバランスよくとれていることがうかがえる。二つ目に、学科専門科目、コースプログラム関係、教職科目の満足度、授業評価、学生態度評価も英語基幹科目に続き良好な状態にある。国際日本学科は日本語が専攻言語であるため、日本語の仕組みを学び、言語の発展が日本文化の多様性をうんできたことを学ぶことと並行して、英語で思考力を深め、また表現する運用能力を高めることが学科生にとっては必須の課題である。日本語であっても、英語であっても、思考力と表現力は繋がりを成し、言語の背景にある社会的・文化的な歴史を学ぶことの必要性を踏まえ、学科生が専門科目を受講する自分自身に対して肯定的に捉えられるという

ことは、それだけ大学での学びに自信をもっているからではないだろうか。三つ目に、アカデミックスキルズプログラムの在り方について調査、分析を続けていくことの必要性についてである。授業に対する満足度も授業評価も、学生態度への評価も、ほぼすべてにおいて平均を大幅に下回っている。今回の調査資料だけでは同プログラムの何が学生の意識を低下させる傾向にあるのか要因を探ることができない。他の学部・学科の状態も伺いながら、学生にとってより良い学習環境を提供していけるよう努めていきたい。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	CLED	担当者	古村由美子
------	------	-----	-------

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 CE、LC、TTI

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2021年度は4.5であったが、当該2022年度は4.3だったため、前年度よりも評価が少々下がった。

全体平均を下回った項目は2項目、2-①、B-②であり、それ以外は少し上回るか全体平均と同値であった。4学部全体を通しての総合的な評価としては良好と言える。学科別、科目別の結果については後述する。

回答率については、昨年度の38%の回答率に対して、今年度は53%となったが、高い回答率ではないため、依然として回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

B-① (4.4 < 4.5:全体平均) と B-② (4.4 < 4.5:全体平均) は全体平均より0.1低いとはいえ平均値自体は良い結果を示している。項目内容は「休まず出席した」、「真剣な態度で受講した」であった。

上記以外の項目の平均値は、微増か同じ評価であった。

3. 今後の授業改善に向けて

B-③「シラバスを活用した」のみ、全体平均と同じく3.6で4.0を下回ったが、他の項目は昨年度同様であり、4.1から4.7の間の値であったため、全体としては良好な評価であった。

C-①-2は、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」の問に対して、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由であり、「早すぎる」(17名)、「少し早い」(26名)、「少し遅い」(11名)、「遅すぎる」(3名)、未回答(1名)という結果を示している(計58名)。本集計は4学部全体の回答数(1,238名)から出てきた数字であるため、それほど大きな数字ではないかもしれないが、今後進度に関しては、学生の学習の状況を見ながら教員が調整することが必要かと思われる。

D-①-2は、D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」の問に対して、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由であり、「高すぎる」(15名)、「少し高い」(30名)、「少し低い」(14名)、「低すぎる」(6名)という結果を示している。昨年度は「高すぎる」(6名)、「少し高い」(32名)であったため、今年度は昨年度よりも、レベルが高いと感じている学生数が少々増えていることには留意する必要があるかもしれない。レベルが低いと感じた学生数は昨年度と同程度であったことを追記する。

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 PUT

1. 調査結果の概要

全体平均より低かった項目は2項目、B-①(4.1)、B-③(3.4)であり、それ以外の項目では、全て全体平均を上回った。この結果から、PUTが学生から高く評価されていることがわかる。

回答率は57%であり、それほど悪くはないと思われるが、理想としてはもっと回答率を上げる方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった2項目、B-①(4.1 < 4.4:全体平均)とB-③(3.4 < 3.6:全体平均)の項目内容は順に「休まず出席していた」、「この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した」であった。出席については全体平均より少し低いが評価自体は概ね良好といえる。シラバスを活用している学生の率は少々低いことを示している。

上記以外の項目は全体平均より高かったが、その内全体平均より0.4以上高かった項目は、C-⑥(4.7 > 4.3:全体平均)であった。項目内容は、「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」であった。

これらの結果は、教員の教育方法が高く評価され、その効果として学生の授業への参加度が増したと考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

PUTは4名の学生に対して教員1名という、語学学習として理想的な授業形態である。NUFSの英語教育プログラムの特徴を示す代表的科目として、今後も現在の状況が存続することを期待する。

対象：英米語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2021年度は4.5だったが、今年度2022年度は4.2であったため、前年度よりも評価が少し下がった。

全体平均よりも低かった項目は4項目あり、A-①、B-①、B-②、C-⑥であった。

上記4項目以外は、全体平均と同じか、または高かった。CELPの授業は概ね高く評価されたと考えられる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均よりも低かった4項目は、A-①(4.2 < 4.3:全体平均)「全体として満足であった」、B-①(4.3 < 4.4:全体平均)「休まず出席した」、B-②(4.3 < 4.4:全体平均)「真剣な態度で受講した」、C-⑥(4.2 < 4.3:全体平均)「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」であった。しかしながら、その差は0.1であるため問題ないと考える。

それ以外の全ての項目において、全体平均と同じかまたは上回っていた。

3. 今後の授業改善に向けて

本授業は概ね高く評価されていると考えられる。ただし、昨年度よりも「全体としての満足度」が0.3下がったことは気になる点である。全体平均より下回った項目を鑑みると、学生が積極的、より真剣な態度で受講するような工夫が少々必要かもしれない。

対象：英米語・英語コミュニケーション専攻 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.6 であり全体平均 4.3 よりも上回った。全体平均を下回った項目はなく、学生が本授業を高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全ての項目が全体平均と同じか上回っていた。全体平均よりも 0.4 上回った 2 項目は、B-5 と C-⑥ であり、項目内容は「授業で指定された教科書・参考書等を十分に活用した」と「学生の積極的授業参加への配慮」であった。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：英語教育専攻 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.6 であり全体平均 4.3 よりも上回った。全体平均を下回った項目は 1 つあったが、学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った項目は、C-④ (4.5 > 4.6 : 全体平均) で項目内容は「教員の熱意をもった授業取り組み」であったが、評価値は 4.5 で高いため問題はないと思われる。

これ以外の項目は全体平均と同じか上回った。全体平均より上回った項目の内、0.4 以上高かった 3 項目は、B-4 (4.4 > 3.9 : 全体平均)、B-5 (4.6 > 4.2 : 全体平均)、D-①-1 (4.5 > 4.1 : 全体平均) であり、項目内容は順に「予習、復習を積極的に行った」、「授業で指定された教科書・参考書等を十分に活用した」、「授業レベルが適切」であった。

3. 今後の授業改善に向けて

学生から高い評価を得た項目内容から鑑みると、学生の学習意欲が高く、教員が授業を適切なレベルで実施していることが窺える。今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：フランス語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2021 年度は 4.6 であったが、当該 2022 年度は 4.2 だったので、前年度よりも評価が下がった。しかしながら、4.0 以上であるため問題はないと思われる。

8項目A-①、B-①、B-②、C-④、C-⑤、C-⑥、D-①-1、D-③が全体平均より低かった。それ以外は全体平均と同じか上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均よりも低かった8項目の中で全体平均よりも0.3低かった項目は3つあり、B-②(4.1 < 4.4 : 全体平均)、C-④(4.3 < 4.6 : 全体平均)、C-⑤(3.9 < 4.2 : 全体平均)であった。項目内容は順に「真剣な態度で受講した」、「教員の熱意をもった授業取り組み」、「私語への適切な処置」であった。

一方、全体平均と比べて非常に評価の高かった項目はなかった。

上記の3項目については全体平均を下回ってはいるが、評価自体はある程度の高さであるため、特に問題はないと思われる。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。1点のみ改善点があるとするれば、学生の私語について教員がより適切に対応することが望まれる。

対象：中国語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2021年度は4.1であったが、当該2022年度は4.3だったので、前年度よりも評価が上がった。

6項目B-①、B-②、B-5、C-③、D-①-1、D-②が全体平均を下回った。それ以外は全体平均と同じか上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った6項目の内、B-①(3.9 < 4.4 : 全体平均)は全体平均よりも0.5低かった。項目内容は「授業に休まず出席していた」であった。

上記以外の項目については、全体平均とは微差であるため特筆すべきことはないとする。

3. 今後の授業改善に向けて

B-①は出席に関する内容であるため、今後は学生の学習意欲がより高まって、出席率が向上するように工夫されることが望まれる。

対象：英米語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2021年度は4.7であったが、当該2022年度は4.4だったので、前年度よりも評価が少し下がった。それでも高評価ではある。

全体平均を下回った項目は2つ、B-①とB-③であり、この2項目以外の項目では、全体平均と同じか上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は2つであり、B-① (3.9 > 4.4 : 全体平均) と B-③ (3.2 > 3.6 : 全体平均) であり、項目内容は順に、「休まず出席した」、「シラバスを活用した」であった。

この2項目以外の項目では、全体平均と同じか上回った。全体平均より0.4以上高かった項目は1つで、C-⑥ (4.7 > 4.3 : 全体平均) であり、項目内容は、「学生の積極的授業参加への配慮」であった。教員の指導上の配慮により、学生が積極的に授業参加できたことがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。レベルについては、回答者252名中「高すぎる」が9名、「少し高い」が19名、「少し低い」が5名、「低すぎる」が4名であった。昨年度は、「高すぎる」と評価した学生はなく、また「少し高い」が3名であったため、今年度の1年生の方が、昨年度の1年生よりもレベルが高いと感じている学生が多いことがわかる。

PUT 実施時のグループメンバー間にレベルの差がある場合は、教員が適切にレベル調整することが望まれる。

対象：フランス語学科・中国語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2021年度は4.7であったが、当該2022年度は4.6だったので、前年度よりも評価が0.1下がった。それでも高評価である。

全体平均を下回った項目は2つ、B-①とB-③であり、この2項目以外の項目では、全体平均と同じか上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は2つであり、B-① (4.0 > 4.4 : 全体平均) と B-③ (3.4 > 3.6 : 全体平均) であり、項目内容は順に、「休まず出席した」、「シラバスを活用した」であった。

この2項目以外の項目では、全体平均と同じか上回った。全体平均より0.3高かった項目は5つで、B-6 (4.6 > 4.3 : 全体平均)、C-①-1 (4.6 > 4.3 : 全体平均)、C-② (4.7 > 4.4 : 全体平均)、C-⑥ (4.6 > 4.3 : 全体平均)、D-② (4.5 > 4.2 : 全体平均) であり、項目内容は、「4スキルの内いずれか1つ以上に積極的に取り組んだ」、「授業進度が適切」、「教員の説明がわかりやすかった」、「学生の積極的授業参加への配慮」、「授業に大変興味を持てた」であった。教員の指導上の配慮により、学生の興味が増し、積極的に授業参加できたことがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。レベルについては、回答者75名中「高すぎる」が3名、「少し高い」が12名、「少し低い」が5名であった。昨年度は、「高すぎる」と評価した学生はなく、また「少し高い」が1名であったため、今年度の1年生の方が、昨年度の1年生よりもレベルが高いと感じている学生が多いことがわかる。

PUT 実施時のグループメンバー間にレベルの差がある場合は、教員が適切にレベル調整することが望まれる。

対象：世界教養学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2021 年度は 4.6 であったが、当該 2022 年度は 4.3 であったので、前年度よりも評価が少し下がった。しかしながら、4.3 という評価は高いため問題ないと考える。

B-②のみ全体平均より 0.1 低い 4.3 であったが、それ以外の全ての項目が全体平均と同じか上回っていたため、授業評価は良好であると言える。

気になる点は、回答率の低さ(38%)である。昨年度の回答率 27%と比較すると 11%上がってはいるが、依然として低い率である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

B-② (4.3 < 4.4: 全体平均) のみ全体平均より低かったが、評価そのものは 4.3 であるため問題ないと考える。それ以外の全ての項目が全体平均と同じか、0.1 上回った結果であった。全体平均よりも特に評価が高い項目はないが、全ての項目において高い評価を得た。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。回答率が 38%と低いため、全体を把握することは難しいが、D-①-2 で示された授業レベルについては、回答者 151 名中「高すぎる」が 2 名、「少し高い」が 8 名であるため、レベルの調整が少々必要と思われる。

対象：世界教養学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2021 年度は 4.6 であったが、当該 2022 年度は 4.5 だったため、前年度よりも少々評価が下がった。しかしながら、4.5 という評価は高いため問題ないと考える。2 項目（B-①、B-③）では全体平均を下回っているが、他の項目では全体平均と同じか上回っていた。総合的にみて評価が高いと言える。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った 2 項目は、B-① (4.1 < 4.4: 全体平均)、B-③ (3.0 < 3.6: 全体平均) であり、項目内容は順に「授業には休まず出席した」と「シラバスを活用した」であった。

上記 2 項目以外は全体平均と同じか上回っていたが、0.3 高かった 2 項目は C-⑥ (4.6 > 4.3: 全体平均)、D-② (4.5 > 4.2: 全体平均) であり、項目内容は順に「学生の積極的授業参加への配慮」と「この授業に大変興味を持てた」であった。

教員が学生の授業参加を促したことにより、学生の興味が増し積極的な学習が進んだと解釈できる。

3. 今後の授業改善に向けて

評価の結果からは、特に問題はないと考える。今後も今期同様の取り組みが望まれる。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	教養教育推進センター	担当者	甲斐清高
------	------------	-----	------

1. 調査結果の概要

教養教育推進センター(CLAD)提供の科目群のうち、ICT プログラム、および、世界教養プログラム応用科目のアンケート結果を対象にする。世界教養プログラム応用科目については、「ポップカルチャー」、「暴力といじめ」、「現代を生きる哲学」、「現代政治 B」、「平和構築・紛争予防」がアンケート対象科目となっている。

ICT プログラムについては、回答者数 364 名（回収率 36%）、世界教養プログラム応用科目については、回答者数 638 名（回収率 20%）であった。

2. 項目ごとの分析結果

ICT プログラム

「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。」「C-①-1 授業の進み具合は適切であった。」「D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。」については、おそらく、全学の他科目群と比べて低いものと思われる。

「数理・データサイエンス教育プログラム（MDS）」開始に伴い、2022 年度 2 期の授業では多くの学生が「データサイエンス A」を受講した。この科目では、統計学の基礎を学び、Excel を使って実習する。本学の学生は、統計学を始めとする数学が苦手な場合が多いため、授業の進み具合とレベルについて、このような評価になったものと考えられる。予習・復習を積極的に行う学生の割合が少ないのは、そういった苦手意識と、科目の重要性が理解されていないことが影響しているのだろう。

世界教養プログラム応用科目

全体的に、大学全体の平均と同じくらいの結果であるが、「C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。」および「C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」が、少し平均を下回っている。

私語に関しては、授業がすべてオンラインで実施されている点を考慮すると、そもそも適切な質問ではないと思われる。学生が積極的に参加できるように配慮しているかどうかについても、この科目群においては、クラスサイズが非常に大きく、かつオンラインで実施されている点を考えると、平均を下回るのはやむを得ない部分もあると思われるが、学生にそのような印象を持たれるのは残念なところである。

3. 今後の授業改善に向けて

ICT プログラム

これからの社会ではデータサイエンス・AI の理解が重要であることを繰り返し説明し、積極的に予習・復習するように導くこと、受講生の理解度をより考慮した授業進行が必要である。

世界教養プログラム応用科目

個々の教員は、学生が積極的に授業に参加できるように、工夫を凝らしているのだが、受講生にそのような実感が無いのだと思われる。クラスサイズの大きいオンライン授業においては、簡単なことではないが、学生が授業に参加していると実感できるような方法を、さらに工夫していくことが必要であろう。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	大学院グローバルコミュニケーション研究科	担当者	鈴木 茂
------	----------------------	-----	------

1. 調査結果の概要

受講者25名のうち6名より回答があり、概ね高い評価を受けていることがわかった。

2. 項目ごとの分析結果

(取り上げる項目は任意です)

A-①(授業満足度、4.5)、B-①(出席、4.7)、B-②(授業へ取り組む姿勢、4.5)、C-①-1(授業の進度、4.5)、C-⑥(授業への積極的な参加への配慮、5.0)など、大学院の授業に関する重要な項目での高い評価が目立った。全体では、12の質問項目中、5、4の評価の割合は、100%が7項目、80%以上が4項目となっている。なお、D-①-1(授業のレベル)のみ、3(普通)の回答が2名から寄せられ、70%を切る結果となっている。2の評価をつけた回答は、C-②(教員の説明のわかりやすさ)、C-③(授業の開始・終了時間)に各1名あった。

3. 今後の授業改善に向けて

受講者の視点からは、大学院の授業は概ね円滑かつ効果的に実施されているように評価されていることから、今後も教員と受講者が自由に意見を交換する環境を大切にし、一層の授業改善に努めたい。

2022年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート (日本語科目とジャパNSTAディーズ科目)	担当者	村上かおり 櫻井省吾
------	---	-----	---------------

1. 調査結果の概要

● 日本語科目

コロナ禍の収束が見えてきたことで2022年度1期から留学生の来日が再開されて対面授業が復活し、2022年度2期はその2学期目であった。オンライン授業のみを開講していたコロナ期間と比較すると留学生数は大幅に増え、本国際日本語教育インスティテュート(IJLE)では118名が対面授業で日本語科目を受講した。

2022年度2期にIJLEとして開講した日本語コースは週8コマの集中コース4つ、週4コマの半集中コース4つ、そして週1コマの日本語能力試験対策コース2つの計50コマであった。

● ジャパNSTAディーズ科目

昨年の授業評価アンケート(2021年度2期)では、留学生がオンラインで母国から受講し、国内学生も同じくオンラインで日本から受講していたため、受講者数が170であったが、今回の授業評価アンケート(2022年度2期)では、受講者数が385と二倍以上にも膨れ上がった。残念ながらアンケートの回収率は9%(35回答数)のため、結果の信頼度は期待できるものではないが、ある程度の傾向は見られるだろう。今回もほぼすべての項目で4.0以上を取っているため、授業の質、学生の満足度は十分維持できている。

2. 項目ごとの分析結果

● 日本語科目

調査対象となった12項目全てにおいて平均値4.1以上、そのうち7項目が4.5以上であった。これは概ね良好な結果と言ってよいであろう。コロナの間、留学を待ち望んだ学生たちの期待に応えることができた結果だと言えよう。特に「C-6 学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」は4.9、「C-3 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」は4.8、「C-4 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」は4.7、「C-2 教員はわかりやすく説明していた」は4.6と高い評価を得ることができた。受講生からのこのような高い満足度を引き出す授業を展開して下さった50コマ分の担当教員の方々の努力と工夫に深い感謝の意を表したい。

なおB-3「シラバスの活用」に関して、IJLEの日本語科目のクラス分けはプレイスメントテストの結果によって教師が行なっているため、受講生自身がシラバスを読んで受講コースを選択しているわけではないことを記しておく。

● ジャパNSTAディーズ科目

特筆すべき項目は全体の平均点を上回った「学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」という項目だ。ジャパNSTAディーズ科目は留学生と国内学生と一緒に授業を受け、授業内で異文化交流と相互の学びを大切にしている国際共修授業であるため、学生主体のアクティブラーニングは非常に重要である。その点が、学生の目線から十分に配慮されていたというのは、

「この授業は全体として満足であった」「この授業に大変興味を持てた」という項目が平均点を上回ったことへの好影響へと繋がったのだろう。

3. 今後の授業改善に向けて

● 日本語科目

コロナ禍が収束に向かうことよって留学生の来日が再び可能になり、協定校の数も増えていることから、これからも留学生数の増加が期待される。今後も受講生の日本語力伸長と満足度の向上を目指し、授業の質の更なる向上を期した教育の実施に力を注ぎ続けたい。

授業の改善からはやや離れるが、今回のアンケートでは受講生 118 名中、回答数が 31 名 (26%) に留まった。今後はさらに多くの学生からのフィードバックが得られるようにインスティテュート内での告知を強化したい。

● ジャパンスタディーズ科目

全体平均から一番開きがあった（下回った）項目「この授業には休まず出席していた」が今度の改善点の 1 つであろう。留学生のほとんどが一学期間だけの短期留学のため、どうしても授業を何度か休んで日本各地へ旅行する傾向がある。留学生は一学期 14 週間（14 回）の授業しかなく、そのうち 4 回（全体の 1/3）までは休むことができるため、コロナで数年日本留学が叶わなかった学生たちが、「この機会に！」と意気込む様子が多々見られた。やはり留学の第一目的は学業にあるため、今後は留学生のオリエンテーションや授業の初日に「出席の大切さ」をスタッフ・教員から協調してもらおうと思う。

集計区分別評価結果

集計単位	全学
集計名称	全学

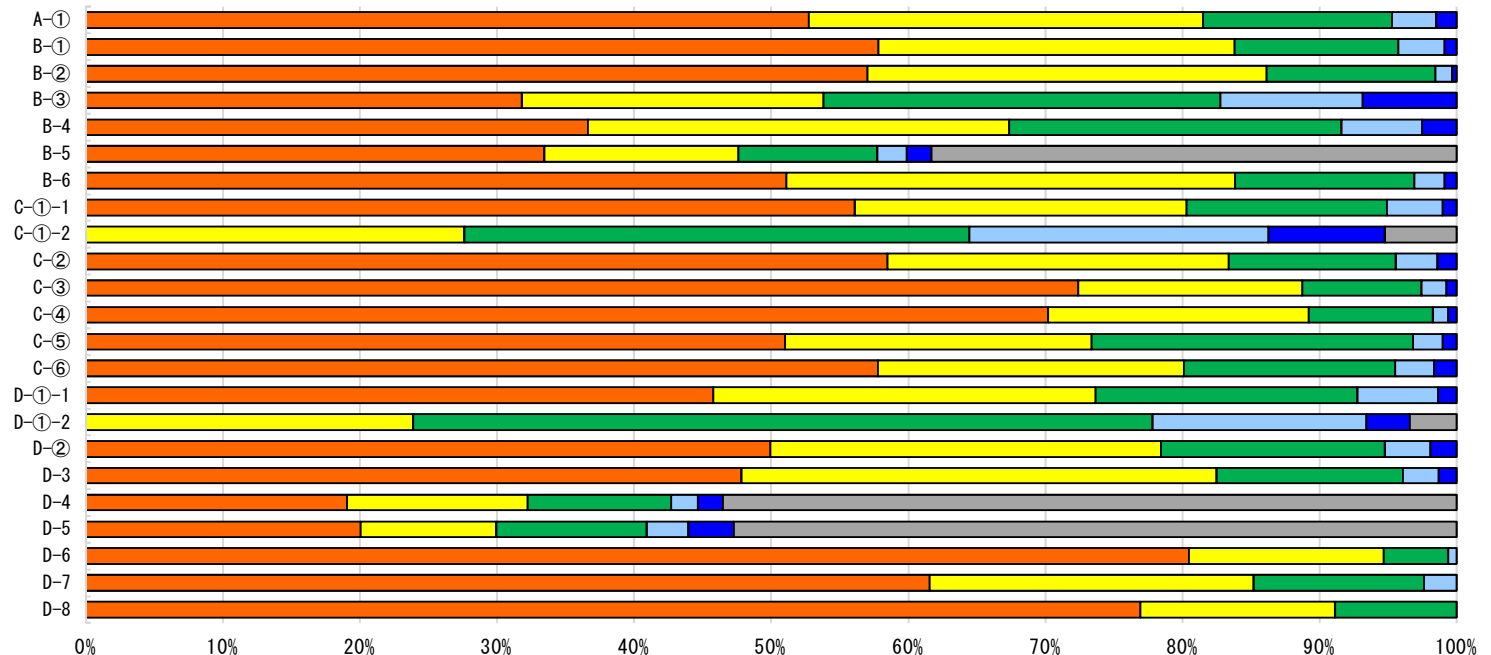
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	5,734	---	---
21生	3,087	---	---
20生	1,349	---	---
19生以前	594	---	---
その他	117	---	---
不明	0	---	---
合計	10,881	31,226	35%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	5,740	3,128	1,497	355	161	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	6,291	2,824	1,303	367	96	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	6,207	3,162	1,343	133	36	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	3,461	2,394	3,150	1,128	748	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	3,899	3,266	2,579	629	267	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	3,344	1,419	1,012	213	186	3,829	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	2,745	1,759	701	118	48	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	6,102	2,633	1,592	442	112	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 153	少し早い 204	少し遅い 121	遅すぎる 47	未答 29		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	6,365	2,708	1,327	330	151	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	7,875	1,779	948	198	81	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	7,640	2,065	988	122	66	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	5,551	2,431	2,552	233	114	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	6,287	2,429	1,678	307	180	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	4,980	3,032	2,081	640	148	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 188	少し高い 425	少し低い 123	低すぎる 25	未答 27		
D-② この授業に大変興味を持てた。	5,435	3,098	1,778	363	207	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	2,568	1,861	730	142	70	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	903	624	495	92	87	2,533	4.0	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	73	36	40	11	12	192	3.9	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	136	24	8	1	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	104	40	21	4	0	0	4.4	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	130	24	15	0	0	0	4.7	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	学部

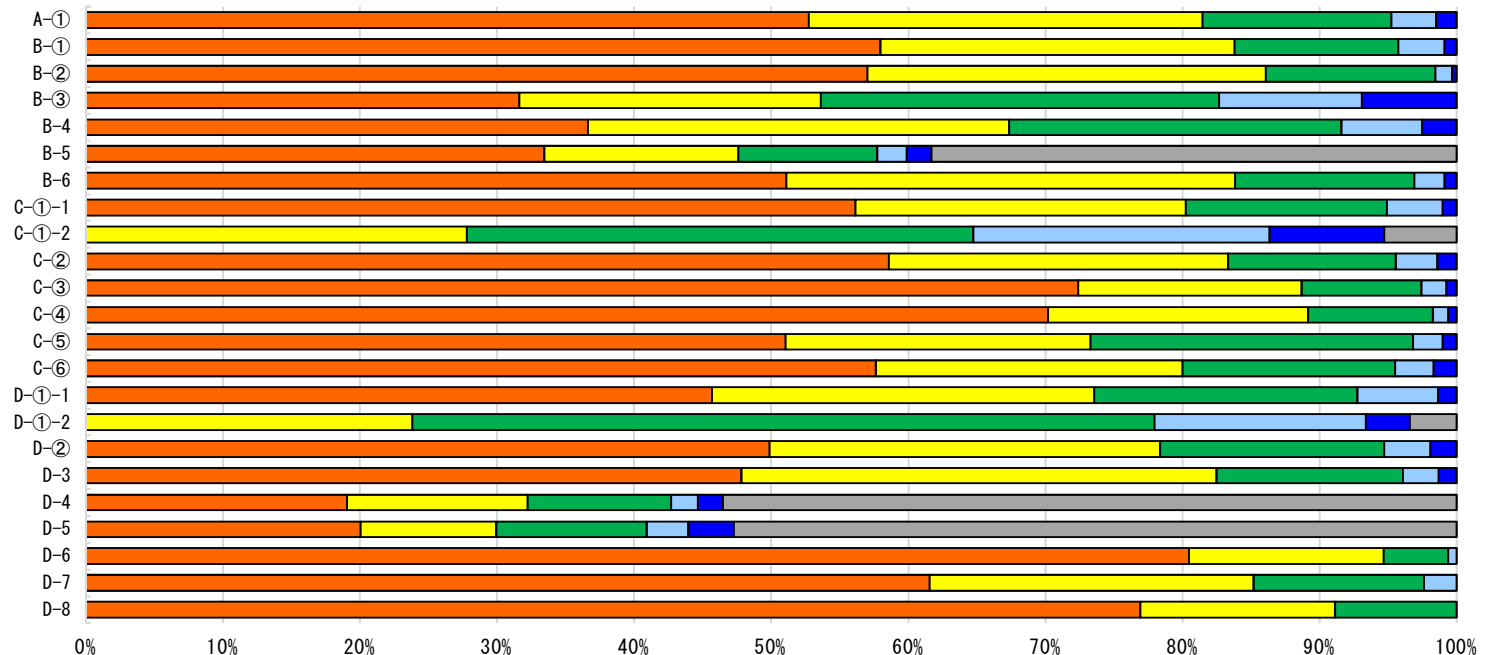
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	5,691	---	---
21生	3,087	---	---
20生	1,348	---	---
19生以前	594	---	---
その他	89	---	---
不明	0	---	---
合計	10,809	30,698	35%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	5,699	3,104	1,492	353	161	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	6,267	2,790	1,290	366	96	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	6,164	3,138	1,338	133	36	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	3,420	2,376	3,141	1,124	748	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	3,899	3,266	2,579	629	267	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	3,344	1,419	1,012	213	186	3,829	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	2,745	1,759	701	118	48	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	6,067	2,608	1,584	438	112	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 153	少し早い 203	少し遅い 119	遅すぎる 46	未答 29		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	6,329	2,679	1,321	329	151	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	7,824	1,761	947	196	81	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	7,589	2,050	983	121	66	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	5,518	2,403	2,544	230	114	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	6,231	2,417	1,676	305	180	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	4,937	3,015	2,072	637	148	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 187	少し高い 425	少し低い 121	低すぎる 25	未答 27		
D-② この授業に大変興味を持てた。	5,392	3,077	1,770	363	207	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	2,568	1,861	730	142	70	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	903	624	495	92	87	2,533	4.0	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	73	36	40	11	12	192	3.9	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	136	24	8	1	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	104	40	21	4	0	0	4.4	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	130	24	15	0	0	0	4.7	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	大学院

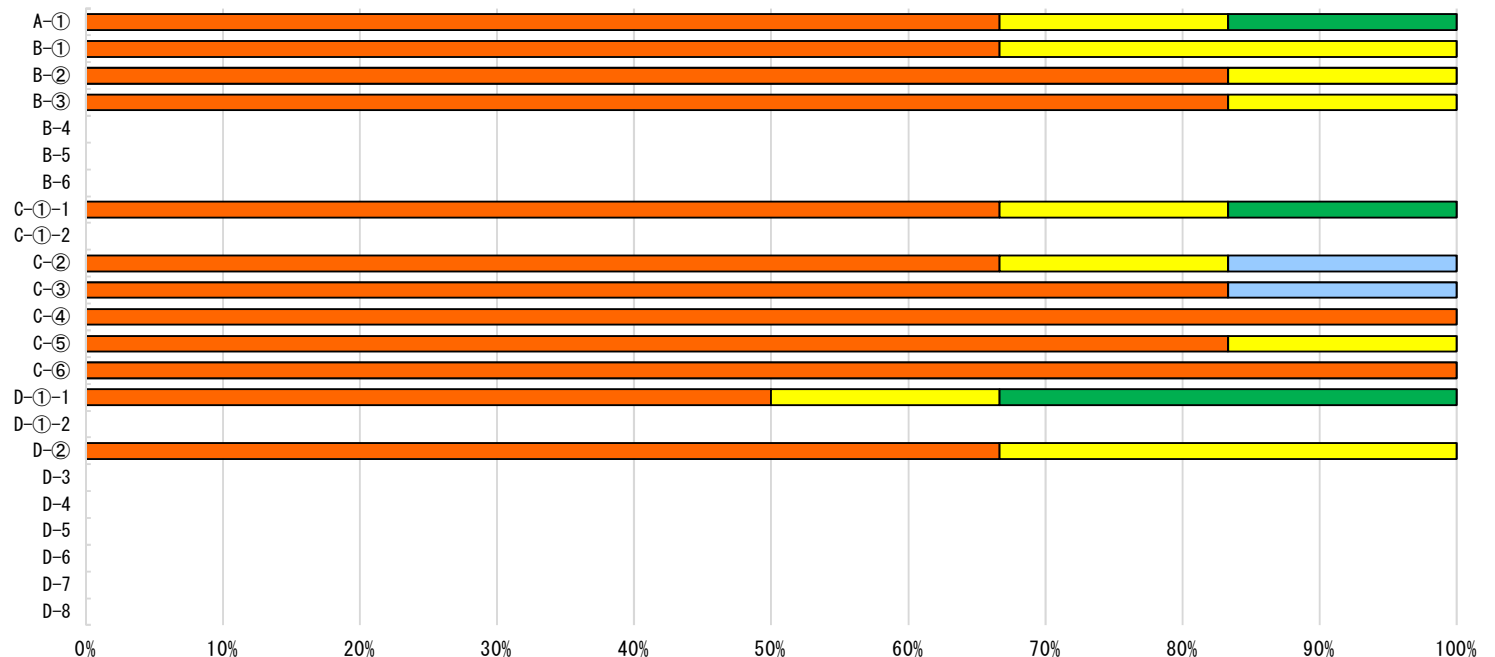
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	0	---	---
21生	0	---	---
20生	0	---	---
19生以前	0	---	---
その他	6	---	---
不明	0	---	---
合計	6	25	24%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	4	1	1	0	0	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	4	2	0	0	0	0	4.7	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	5	1	0	0	0	0	4.8	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	5	1	0	0	0	0	4.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	4	1	1	0	0	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	4	1	0	1	0	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	5	0	0	1	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	6	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	5	1	0	0	0	0	4.8	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	6	0	0	0	0	0	5.0	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	3	1	2	0	0	0	4.2	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	4	2	0	0	0	0	4.7	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	別科

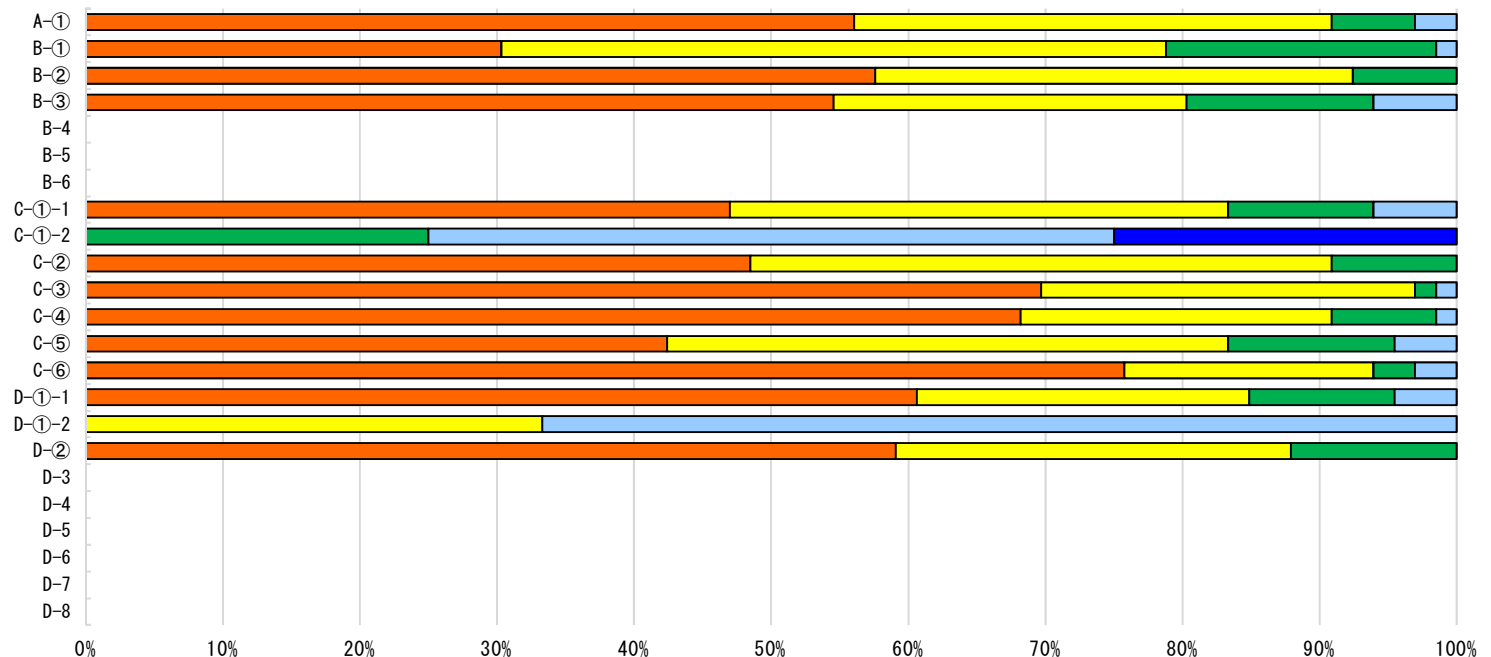
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	43	---	---
21生	0	---	---
20生	1	---	---
19生以前	0	---	---
その他	22	---	---
不明	0	---	---
合計	66	503	13%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	37	23	4	2	0	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	20	32	13	1	0	0	4.1	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	38	23	5	0	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	36	17	9	4	0	0	4.3	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	31	24	7	4	0	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	1	2	1	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	32	28	6	0	0	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	46	18	1	1	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	45	15	5	1	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	28	27	8	3	0	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	50	12	2	2	0	0	4.7	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	40	16	7	3	0	0	4.4	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		1	0	2	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	39	19	8	0	0	0	4.5	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5) ■ややそう思う (4) ■普通 (3) ■あまりそう思わない (2) ■そうは思わない (1) ■未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語・英語コミュニケーション専攻

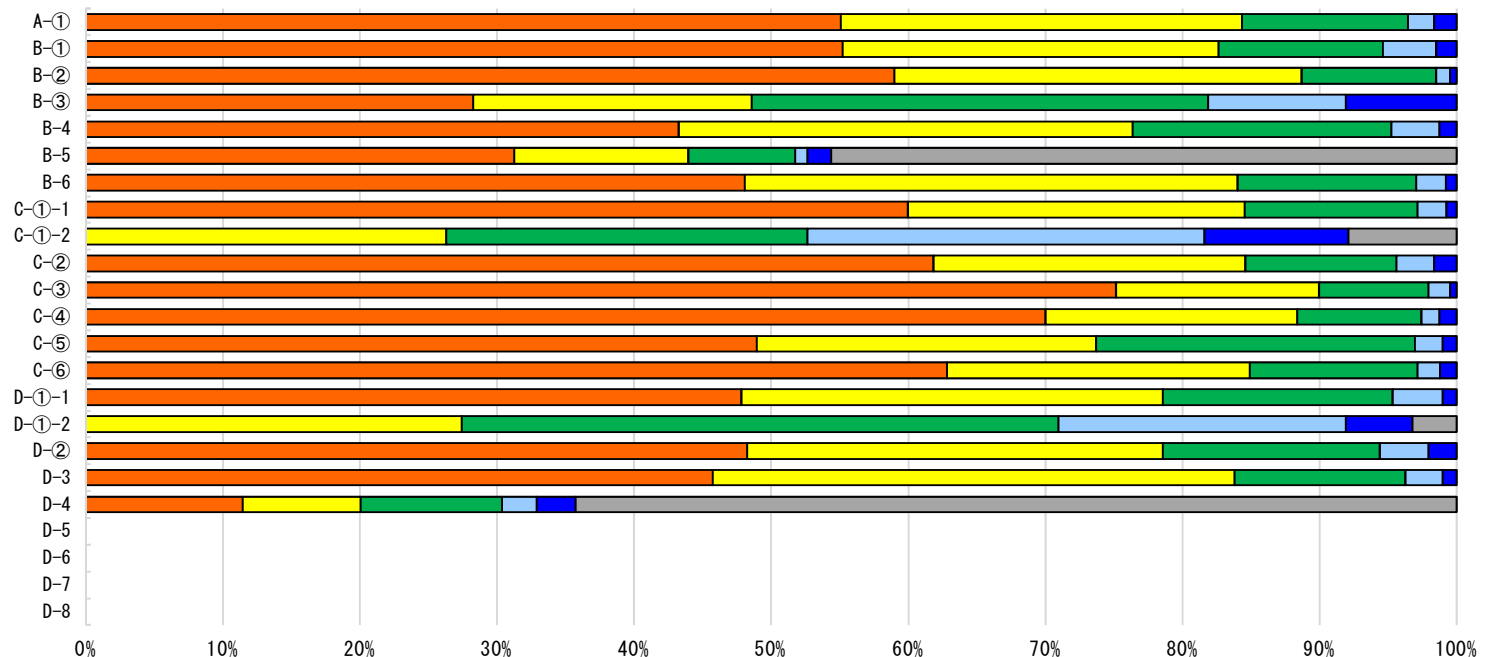
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	554	---	---
21生	307	---	---
20生	269	---	---
19生以前	173	---	---
その他	21	---	---
不明	0	---	---
合計	1,324	4,116	32%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	729	388	160	25	22	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	731	363	159	51	20	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	781	393	130	14	6	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	374	269	441	133	107	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	573	438	250	46	17	0	4.1	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	414	168	103	12	23	604	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	475	355	129	21	8	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	794	325	167	28	10	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		10	10	11	4	3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	819	301	146	36	22	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	995	196	106	21	6	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	927	243	120	17	17	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	648	328	308	26	14	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	832	292	162	22	16	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	633	407	222	48	14	0	4.2	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		17	27	13	3	2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	639	401	210	47	27	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	452	376	123	27	10	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	113	85	102	25	28	635	3.7	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英語教育専攻

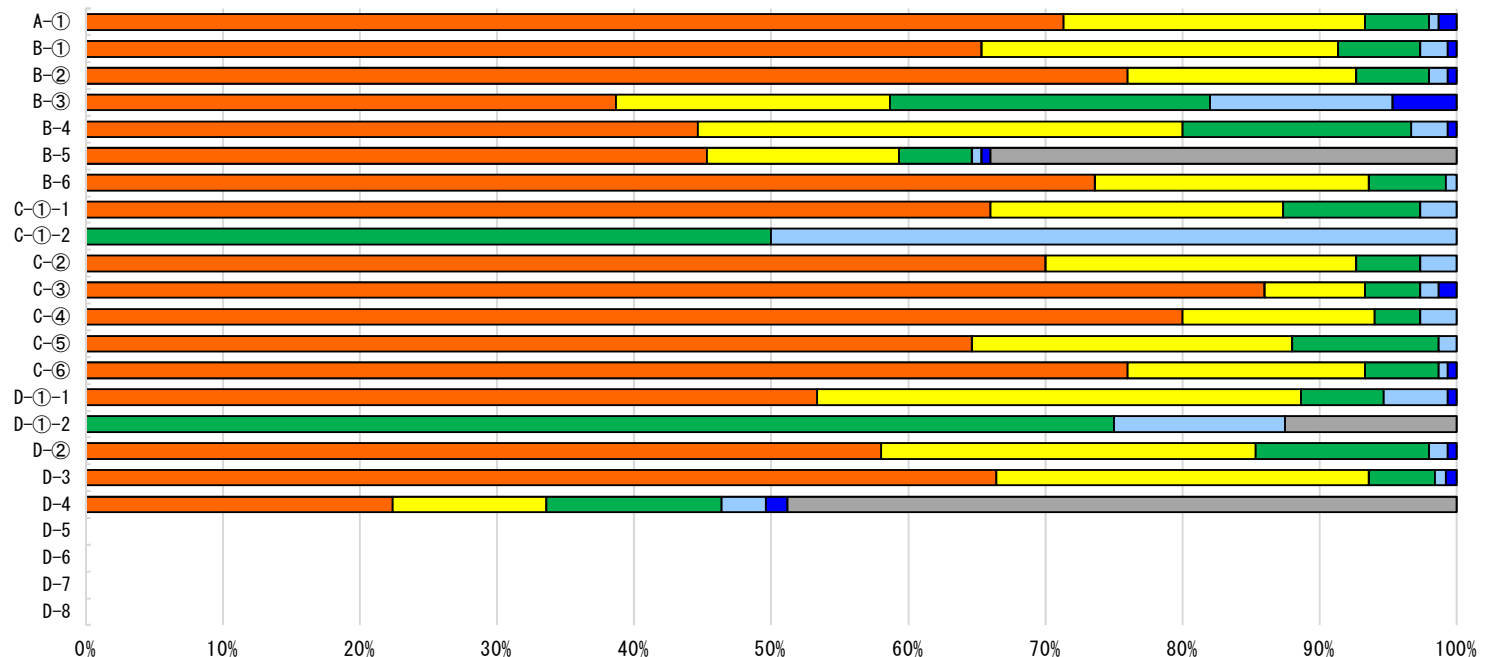
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	125	---	---
21生	25	---	---
20生	0	---	---
19生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	150	306	49%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	107	33	7	1	2	0	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	98	39	9	3	1	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	114	25	8	2	1	0	4.7	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	58	30	35	20	7	0	3.7	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	67	53	25	4	1	0	4.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	68	21	8	1	1	51	4.6	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	92	25	7	1	0	0	4.7	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	99	32	15	4	0	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	105	34	7	4	0	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	129	11	6	2	2	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	120	21	5	4	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	97	35	16	2	0	0	4.5	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	114	26	8	1	1	0	4.7	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	80	53	9	7	1	0	4.4	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	87	41	19	2	1	0	4.4	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	83	34	6	1	1	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	28	14	16	4	2	61	4.0	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語学科共通

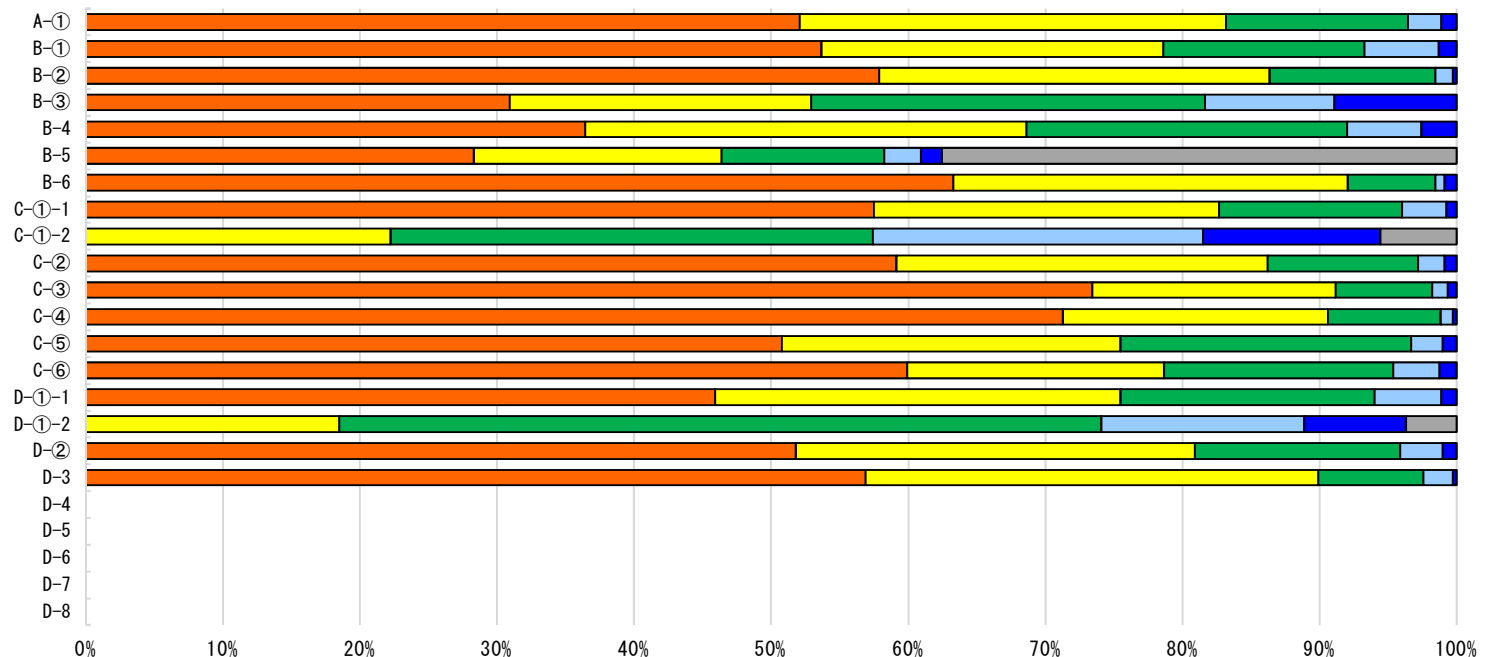
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	975	---	---
21生	259	---	---
20生	95	---	---
19生以前	24	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	1,355	2,834	48%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	706	421	180	33	15	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	727	338	199	73	18	0	4.2	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	784	386	164	17	4	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	419	298	389	128	121	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	494	436	317	73	35	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	291	186	122	27	16	386	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	207	94	21	2	3	0	4.5	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	779	341	181	44	10	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		12	19	13	7	3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	801	367	149	26	12	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	995	240	96	15	9	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	966	262	111	12	4	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	688	335	287	31	14	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	812	254	226	46	17	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	622	401	251	66	15	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		15	45	12	6	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	702	394	203	42	14	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	186	108	25	7	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語学科

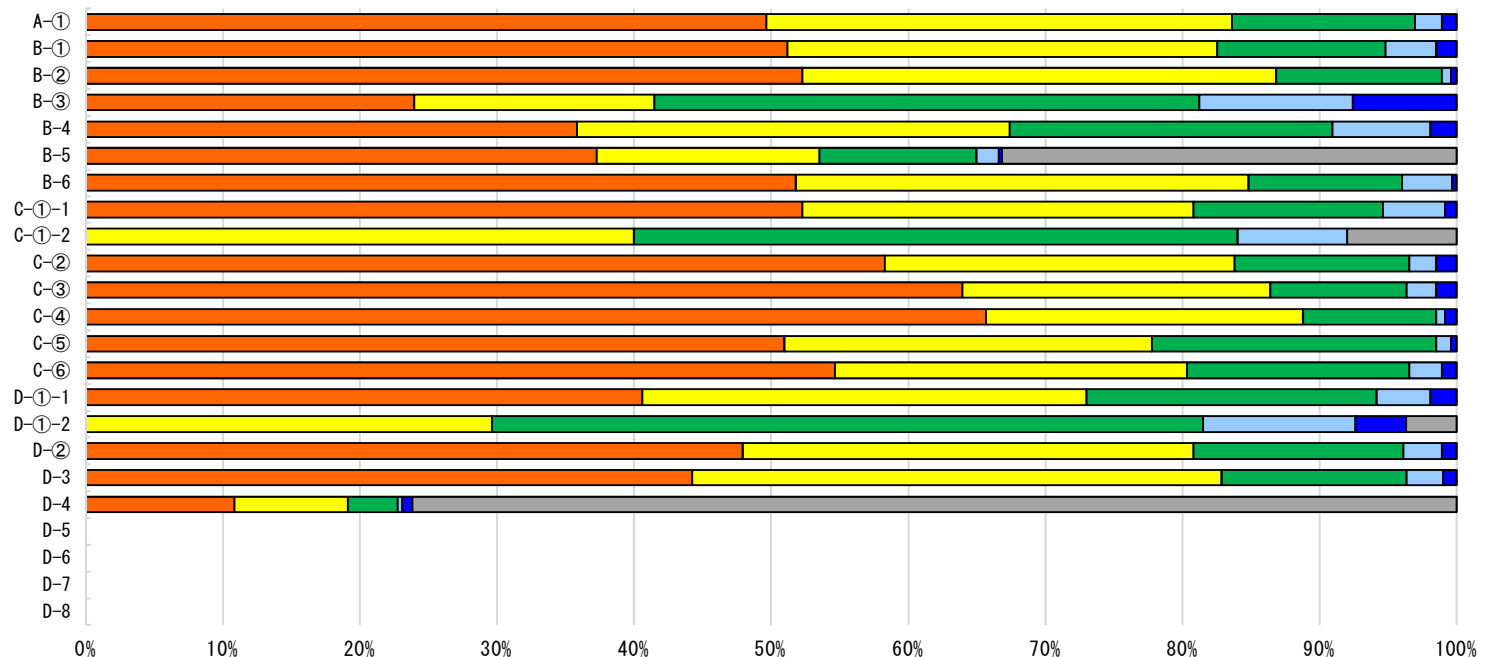
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	165	---	---
21生	113	---	---
20生	133	---	---
19生以前	38	---	---
その他	14	---	---
不明	0	---	---
合計	463	1,119	41%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	230	157	62	9	5	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	237	145	57	17	7	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	242	160	56	3	2	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	111	81	184	52	35	0	3.4	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	166	146	109	33	9	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	163	71	50	7	1	145	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	157	100	34	11	1	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	242	132	64	21	4	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 10	少し早い 11	少し遅い 2	遅すぎる 0	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	270	118	59	9	7	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	296	104	46	10	7	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	304	107	45	3	4	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	236	124	96	5	2	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	253	119	75	11	5	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	188	150	98	18	9	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 8	少し高い 14	少し低い 3	低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	222	152	71	13	5	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	134	117	41	8	3	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	30	23	10	1	2	211	4.2	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	中国語学科

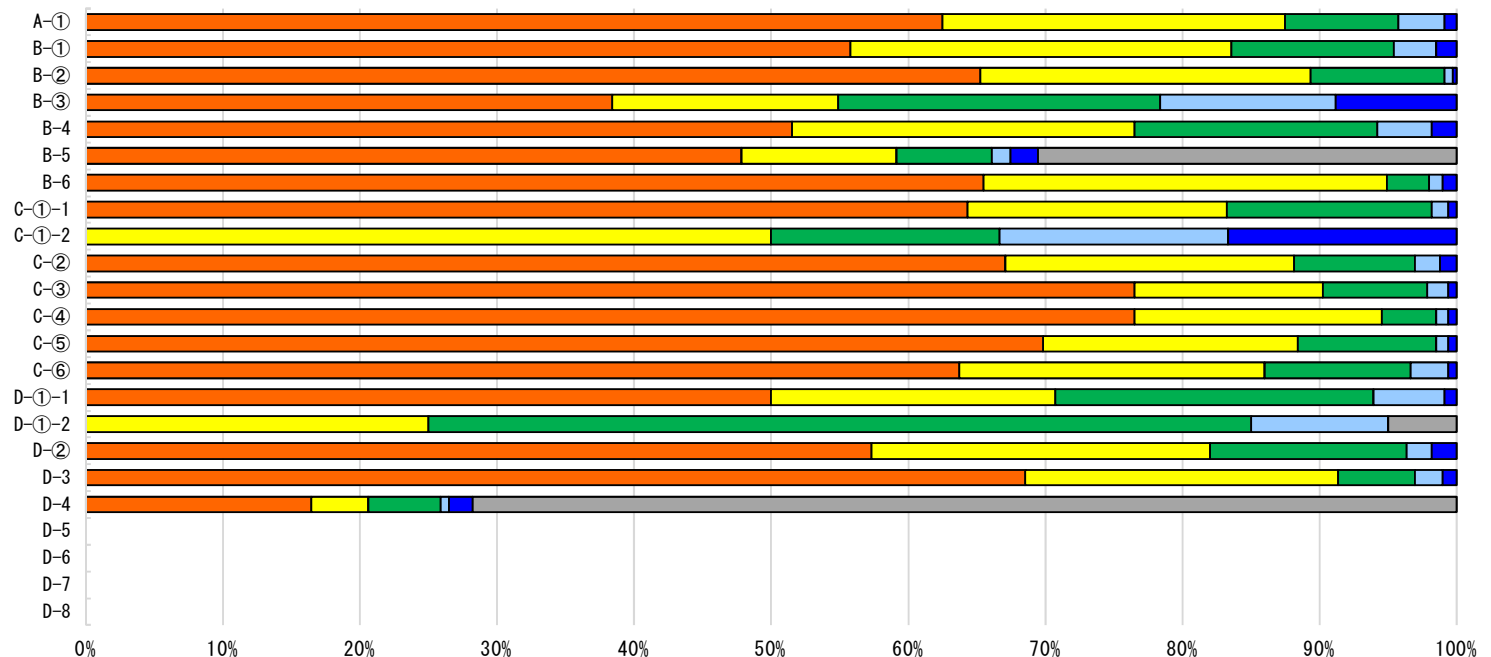
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	187	---	---
21生	103	---	---
20生	24	---	---
19生以前	11	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	328	1,209	27%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	205	82	27	11	3	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	183	91	39	10	5	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	214	79	32	2	1	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	126	54	77	42	29	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	169	82	58	13	6	0	4.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	144	34	21	4	6	92	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	129	58	6	2	2	0	4.6	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	211	62	49	4	2	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 1	少し遅い 1	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	220	69	29	6	4	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	251	45	25	5	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	251	59	13	3	2	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	229	61	33	3	2	0	4.6	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	209	73	35	9	2	0	4.5	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	164	68	76	17	3	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 5	少し高い 12	少し低い 2	低すぎる 0	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	188	81	47	6	6	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	135	45	11	4	2	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	28	7	9	1	3	122	4.2	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語・中国語学科共通

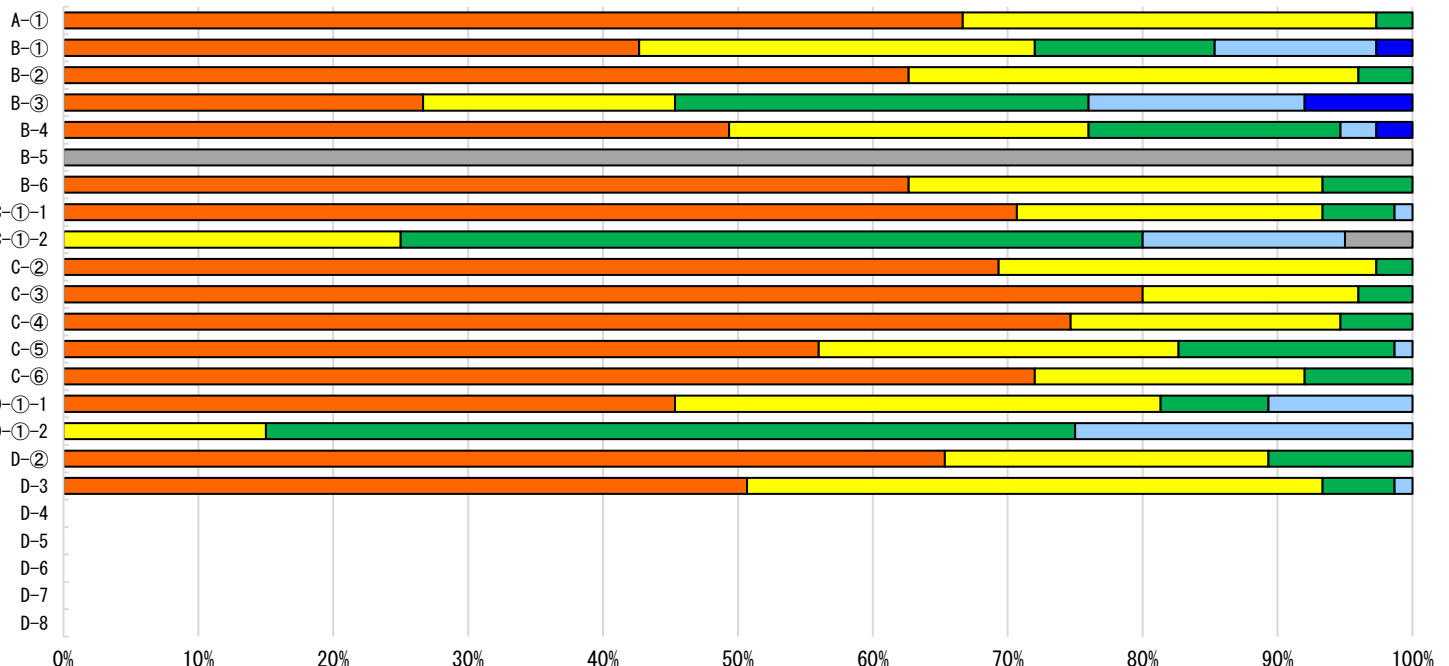
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	72	---	---
21生	1	---	---
20生	2	---	---
19生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	75	99	76%

質問別回答集計表 (人数と平均値)

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	50	23	2	0	0	0	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	32	22	10	9	2	0	4.0	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	47	25	3	0	0	0	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	20	14	23	12	6	0	3.4	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	37	20	14	2	2	0	4.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	43	0.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	47	23	5	0	0	0	4.6	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	53	17	4	1	0	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		5	11	3	0	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	52	21	2	0	0	0	4.7	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	60	12	3	0	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	56	15	4	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	42	20	12	1	0	0	4.4	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	54	15	6	0	0	0	4.6	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	34	27	6	8	0	0	4.2	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		3	12	5	0	0		
D-② この授業に大変興味を持たた。	49	18	8	0	0	0	4.5	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	38	32	4	1	0	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	0.0	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	0.0	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	0.0	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	0.0	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	0.0	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	外国語学部共通

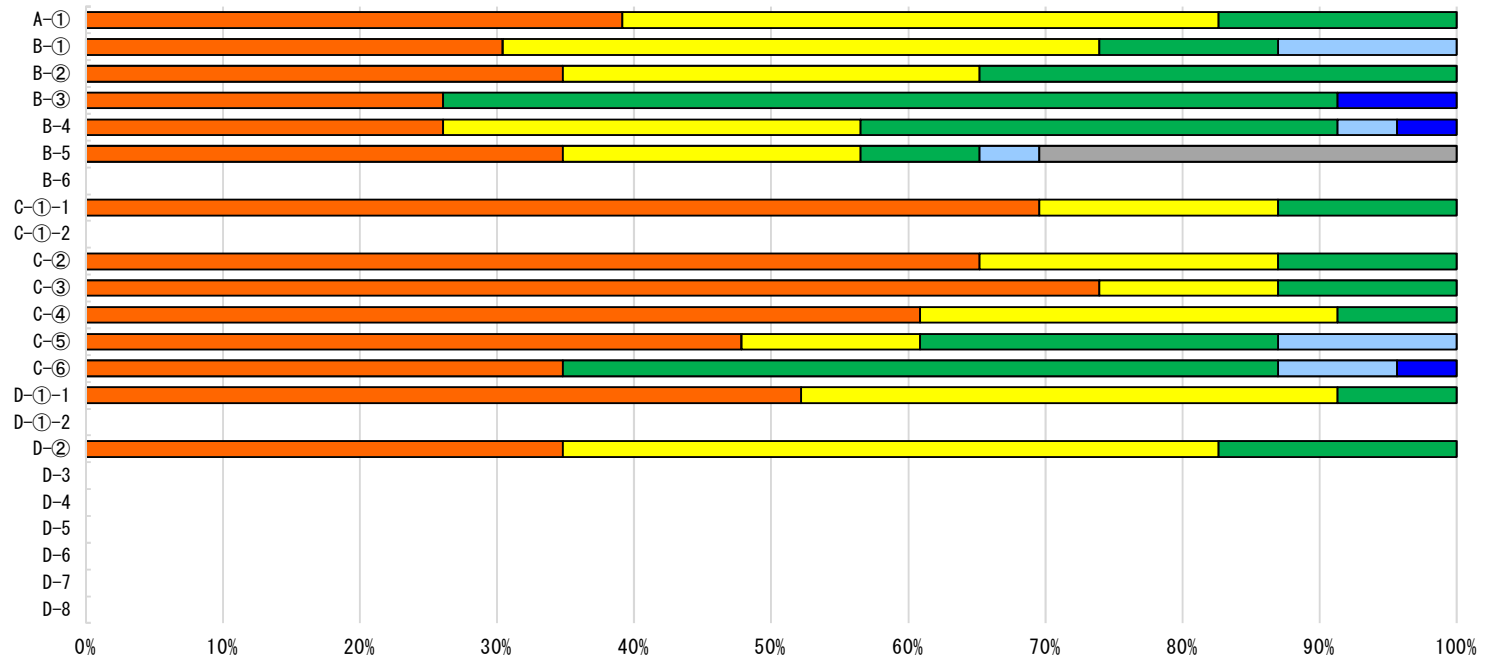
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	0	---	---
21生	0	---	---
20生	15	---	---
19生以前	6	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	23	95	24%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	9	10	4	0	0	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	7	10	3	3	0	0	3.9	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	8	7	8	0	0	0	4.0	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	6	0	15	0	2	0	3.3	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	6	7	8	1	1	0	3.7	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	8	5	2	1	0	7	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	16	4	3	0	0	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 0	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	15	5	3	0	0	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	17	3	3	0	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	14	7	2	0	0	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	11	3	6	3	0	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	8	0	12	2	1	0	3.5	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	12	9	2	0	0	0	4.4	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 0	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	8	11	4	0	0	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	グローバルビジネス学科

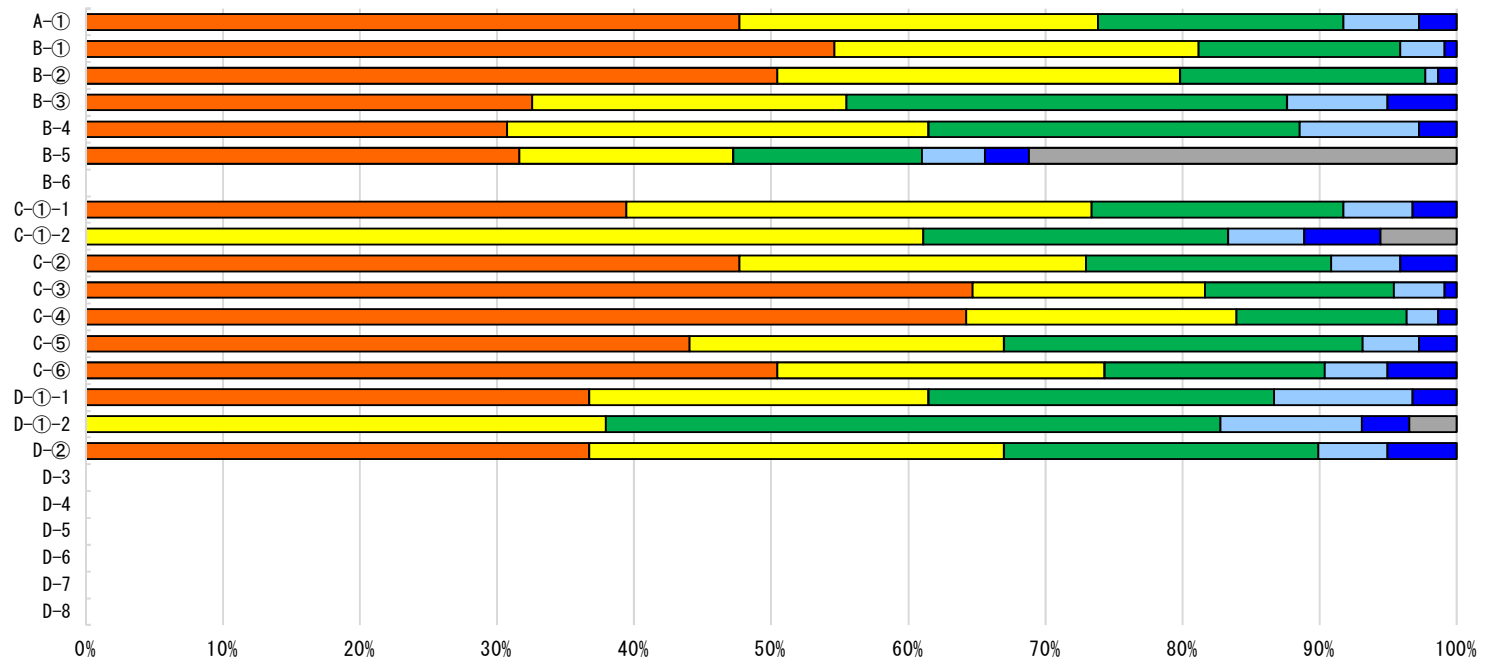
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	160	---	---
21生	36	---	---
20生	15	---	---
19生以前	5	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	218	814	27%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	104	57	39	12	6	0	4.1	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	119	58	32	7	2	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	110	64	39	2	3	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	71	50	70	16	11	0	3.7	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	67	67	59	19	6	0	3.8	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	69	34	30	10	7	68	4.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	86	74	40	11	7	0	4.0	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 11	少し早い 4	少し遅い 1	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	104	55	39	11	9	0	4.1	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	141	37	30	8	2	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	140	43	27	5	3	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	96	50	57	9	6	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	110	52	35	10	11	0	4.1	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	80	54	55	22	7	0	3.8	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 11	少し高い 13	少し低い 3	低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	80	66	50	11	11	0	3.9	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代英語学科

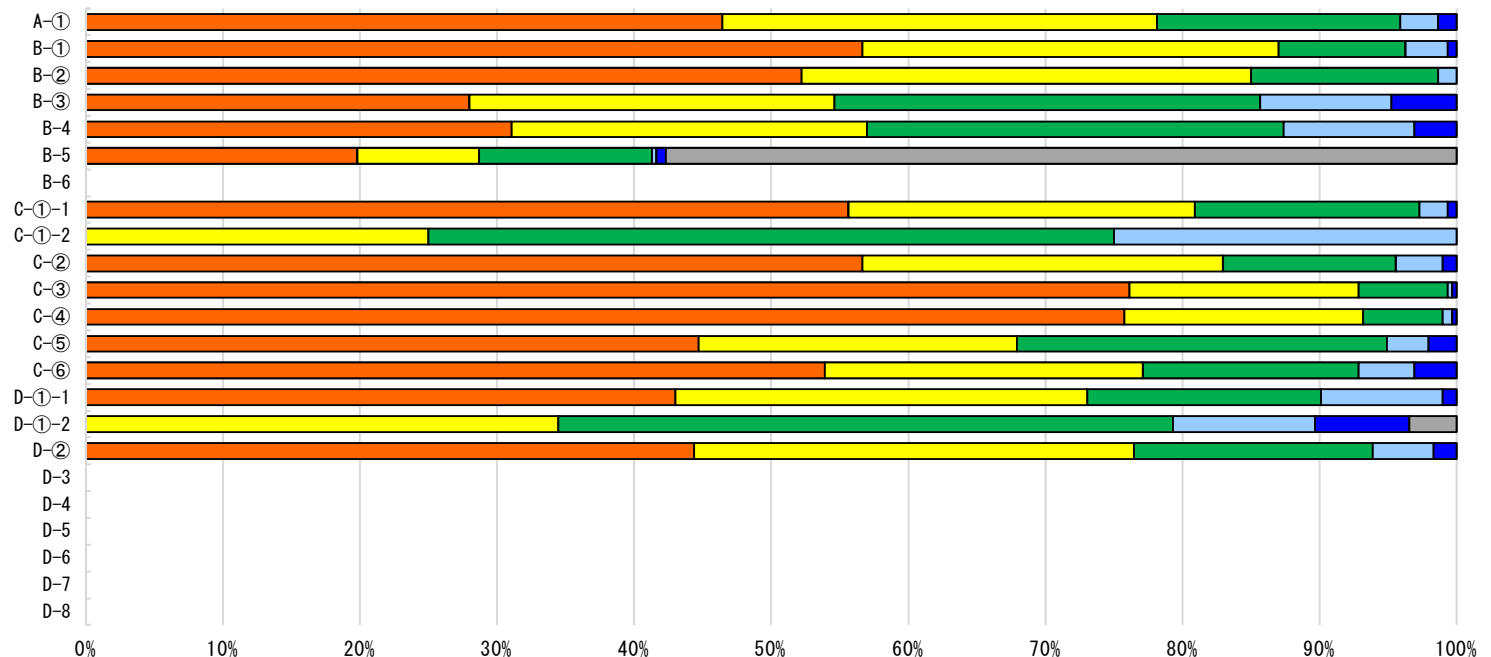
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	127	---	---
21生	75	---	---
20生	65	---	---
19生以前	26	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	293	951	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	136	93	52	8	4	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	166	89	27	9	2	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	153	96	40	4	0	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	82	78	91	28	14	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	91	76	89	28	9	0	3.7	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	58	26	37	1	2	169	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	163	74	48	6	2	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	4	2	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	166	77	37	10	3	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	223	49	19	1	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	222	51	17	2	1	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	131	68	79	9	6	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	158	68	46	12	9	0	4.2	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	126	88	50	26	3	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		10	13	3	2	1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	130	94	51	13	5	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際教養学科

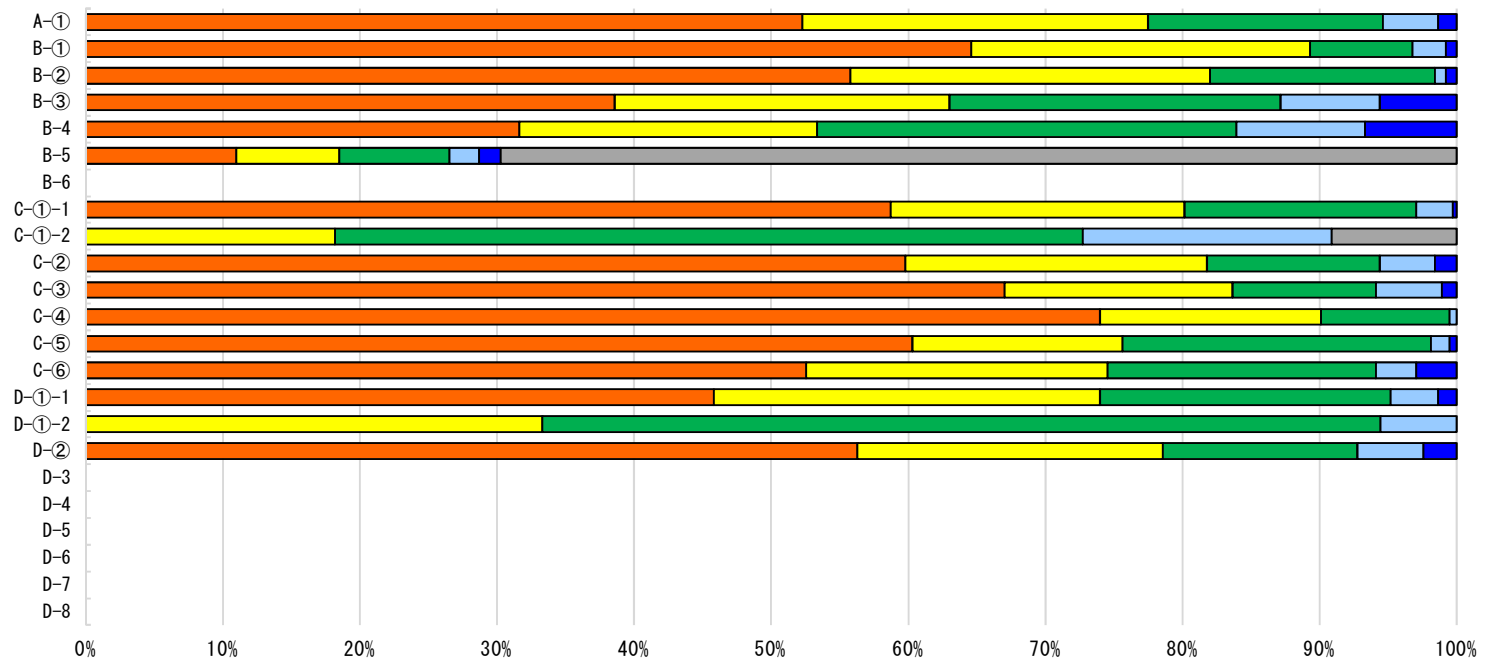
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	170	---	---
21生	125	---	---
20生	53	---	---
19生以前	19	---	---
その他	6	---	---
不明	0	---	---
合計	373	1,262	30%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	195	94	64	15	5	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	241	92	28	9	3	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	208	98	61	3	3	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	144	91	90	27	21	0	3.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	118	81	114	35	25	0	3.6	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	41	28	30	8	6	260	3.8	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	219	80	63	10	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 2	少し早い 6	少し遅い 2	遅すぎる 0	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	223	82	47	15	6	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	250	62	39	18	4	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	276	60	35	2	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	225	57	84	5	2	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	196	82	73	11	11	0	4.2	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	171	105	79	13	5	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 6	少し高い 11	少し低い 1	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	210	83	53	18	9	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代国際学部共通

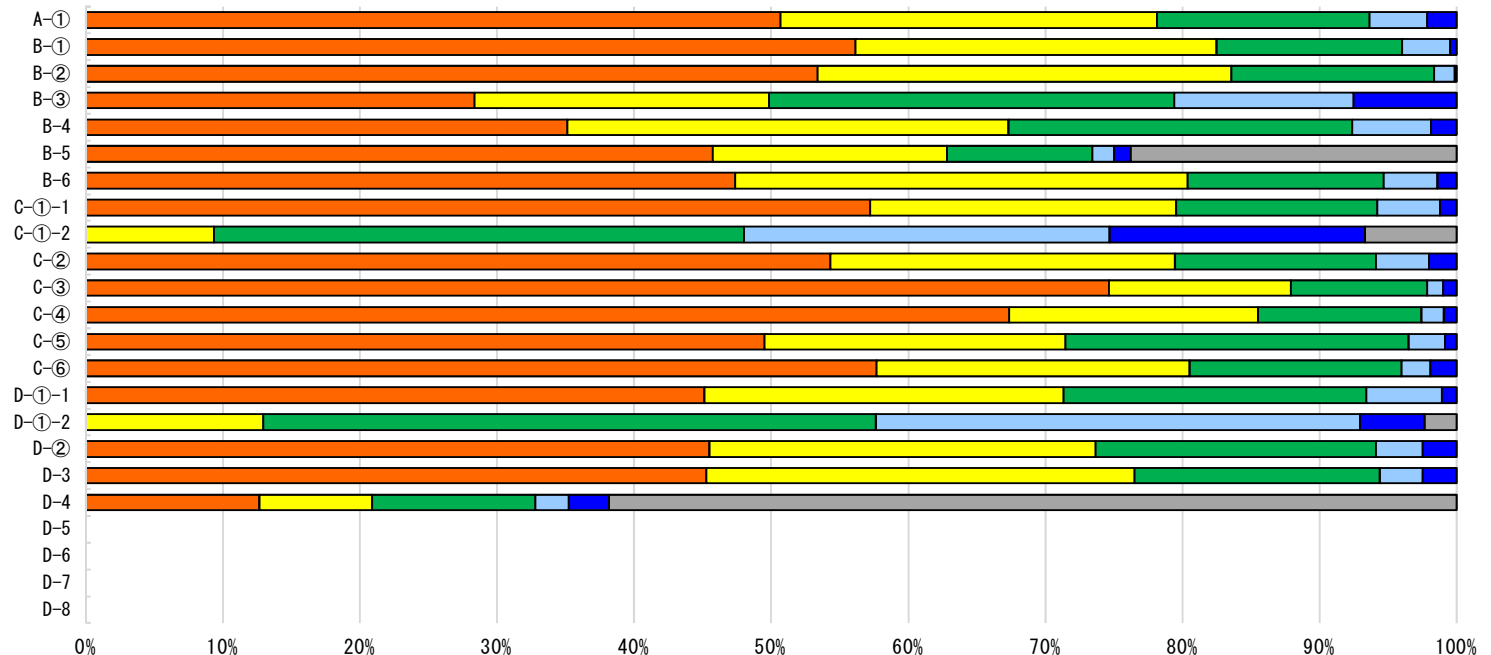
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	835	---	---
21生	408	---	---
20生	34	---	---
19生以前	10	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	1,290	3,317	39%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	654	354	200	54	28	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	724	340	175	45	6	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	689	389	191	19	2	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	366	277	381	169	97	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	453	415	324	74	24	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	525	196	122	18	14	273	4.4	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	437	305	132	36	13	0	4.2	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	738	288	189	59	16	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 7	少し早い 29	少し遅い 20	遅すぎる 14	未答 5		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	701	324	189	50	26	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	963	171	128	15	13	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	869	234	154	21	12	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	639	283	323	34	11	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	744	295	199	27	25	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	582	338	285	71	14	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 11	少し高い 38	少し低い 30	低すぎる 4	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	587	363	264	44	32	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	418	288	165	29	23	0	4.1	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	99	64	93	19	23	483	3.7	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界共生学科

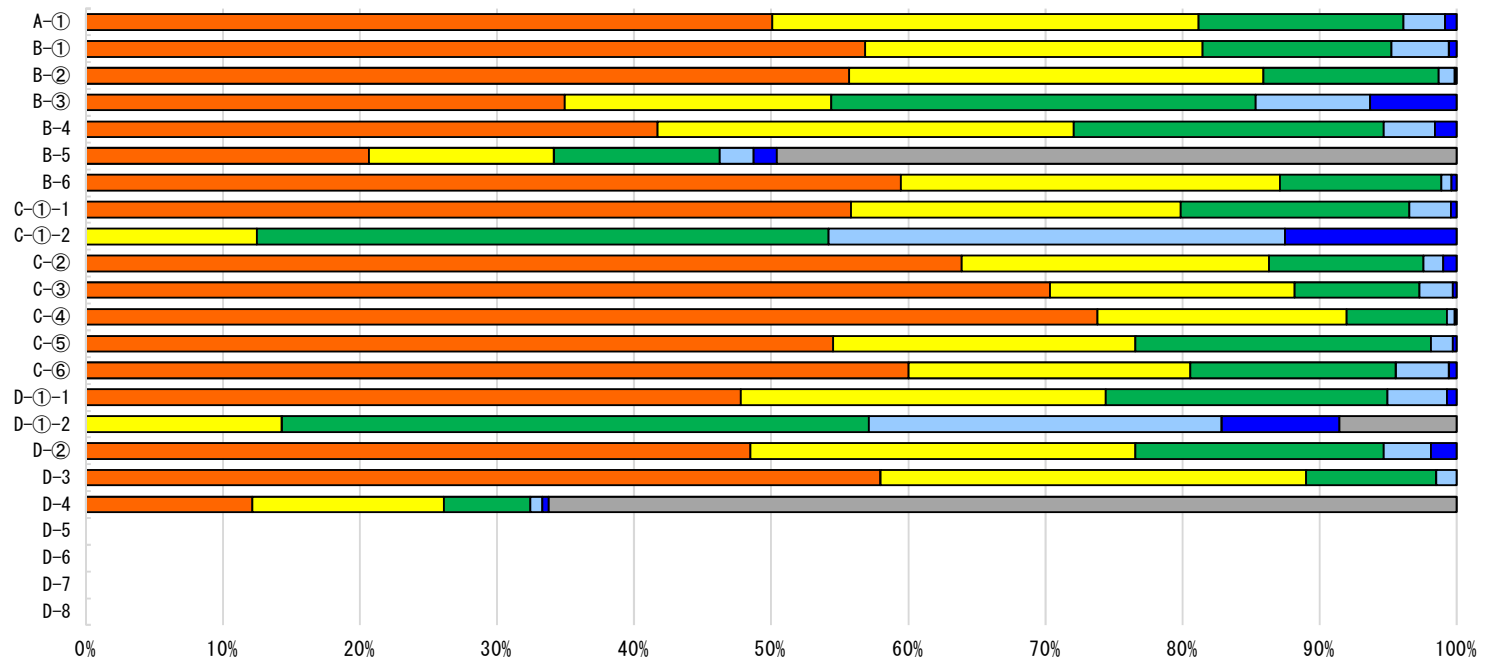
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	415	---	---
21生	117	---	---
20生	129	---	---
19生以前	29	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	695	1,525	46%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	348	216	104	21	6	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	395	171	96	29	4	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	387	210	89	8	1	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	243	135	215	58	44	0	3.7	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	290	211	157	26	11	0	4.1	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	135	88	79	16	11	324	4.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	157	73	31	2	1	0	4.5	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	388	167	116	21	3	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 10	少し遅い 8	遅すぎる 3	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	444	156	78	10	7	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	489	124	63	17	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	513	126	51	4	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	379	153	150	11	2	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	417	143	104	27	4	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	332	185	143	30	5	0	4.2	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 5	少し高い 15	少し低い 9	低すぎる 3	未答 3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	337	195	126	24	13	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	153	82	25	4	0	0	4.5	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	27	31	14	2	1	147	4.1	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5) ■ややそう思う (4) ■普通 (3) ■あまりそう思わない (2) ■そうは思わない (1) ■未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学科（養）

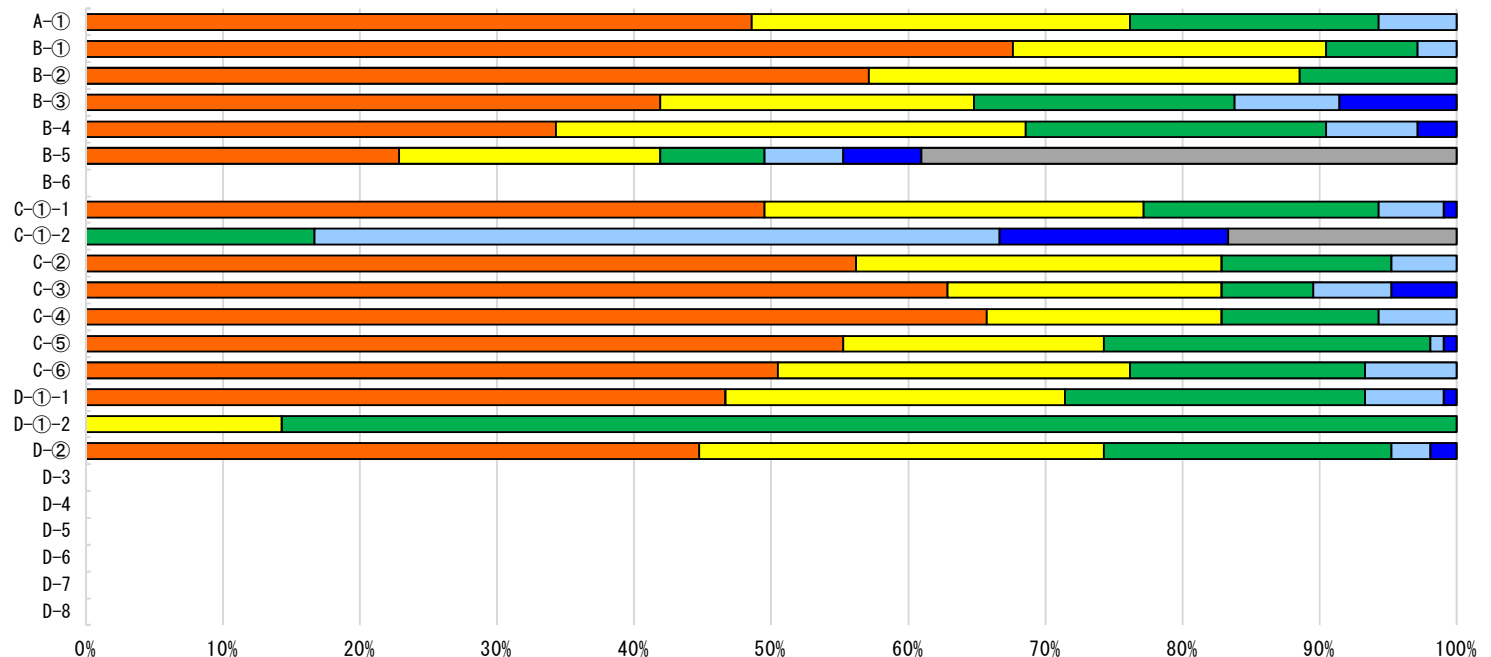
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	45	---	---
21生	36	---	---
20生	14	---	---
19生以前	9	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	105	426	25%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	51	29	19	6	0	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	71	24	7	3	0	0	4.6	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	60	33	12	0	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	44	24	20	8	9	0	3.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	36	36	23	7	3	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	24	20	8	6	6	41	3.8	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	52	29	18	5	1	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 1	少し遅い 3	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	59	28	13	5	0	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	66	21	7	6	5	0	4.3	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	69	18	12	6	0	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	58	20	25	1	1	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	53	27	18	7	0	0	4.2	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	49	26	23	6	1	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 6	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	47	31	22	3	2	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際日本学科

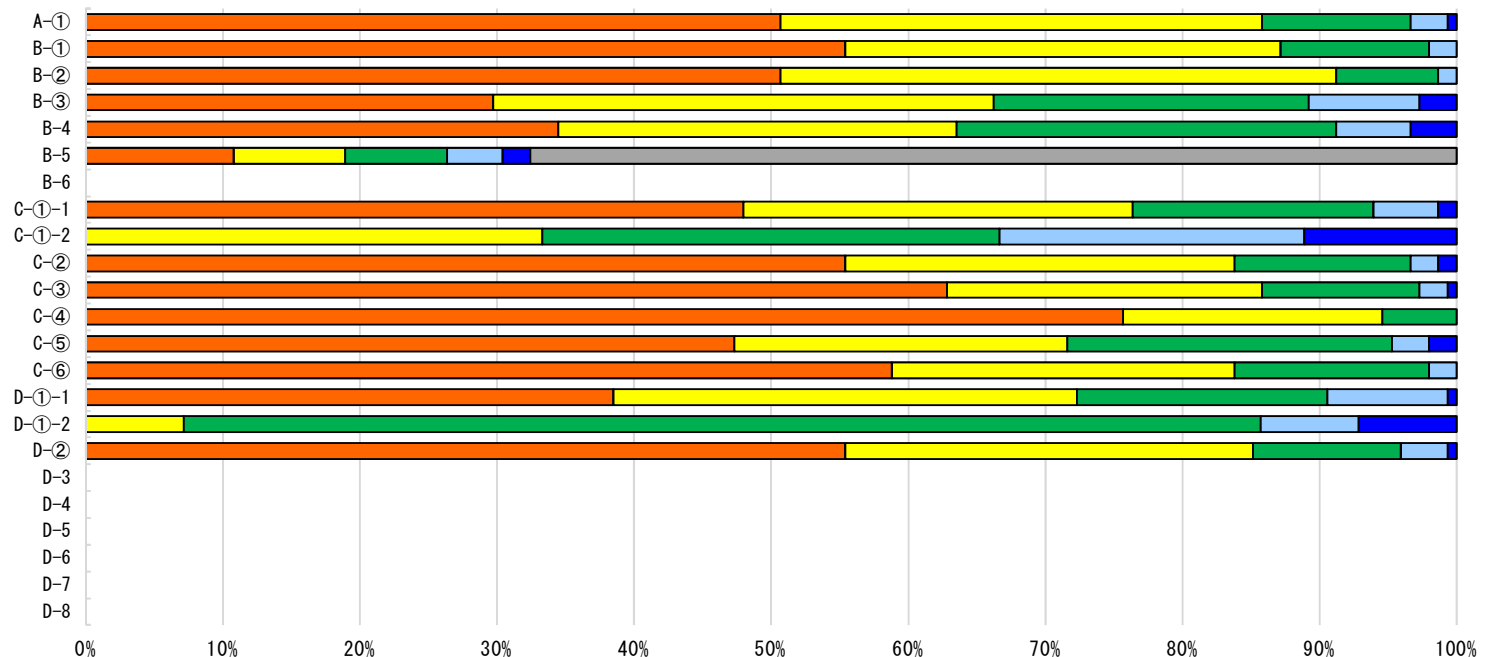
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	47	---	---
21生	90	---	---
20生	9	---	---
19生以前	2	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	148	392	38%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	75	52	16	4	1	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	82	47	16	3	0	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	75	60	11	2	0	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	44	54	34	12	4	0	3.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	51	43	41	8	5	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	16	12	11	6	3	100	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	71	42	26	7	2	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 3	少し遅い 2	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	82	42	19	3	2	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	93	34	17	3	1	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	112	28	8	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	70	36	35	4	3	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	87	37	21	3	0	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	57	50	27	13	1	0	4.0	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 11	少し低い 1	低すぎる 1	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	82	44	16	5	1	0	4.4	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学部共通

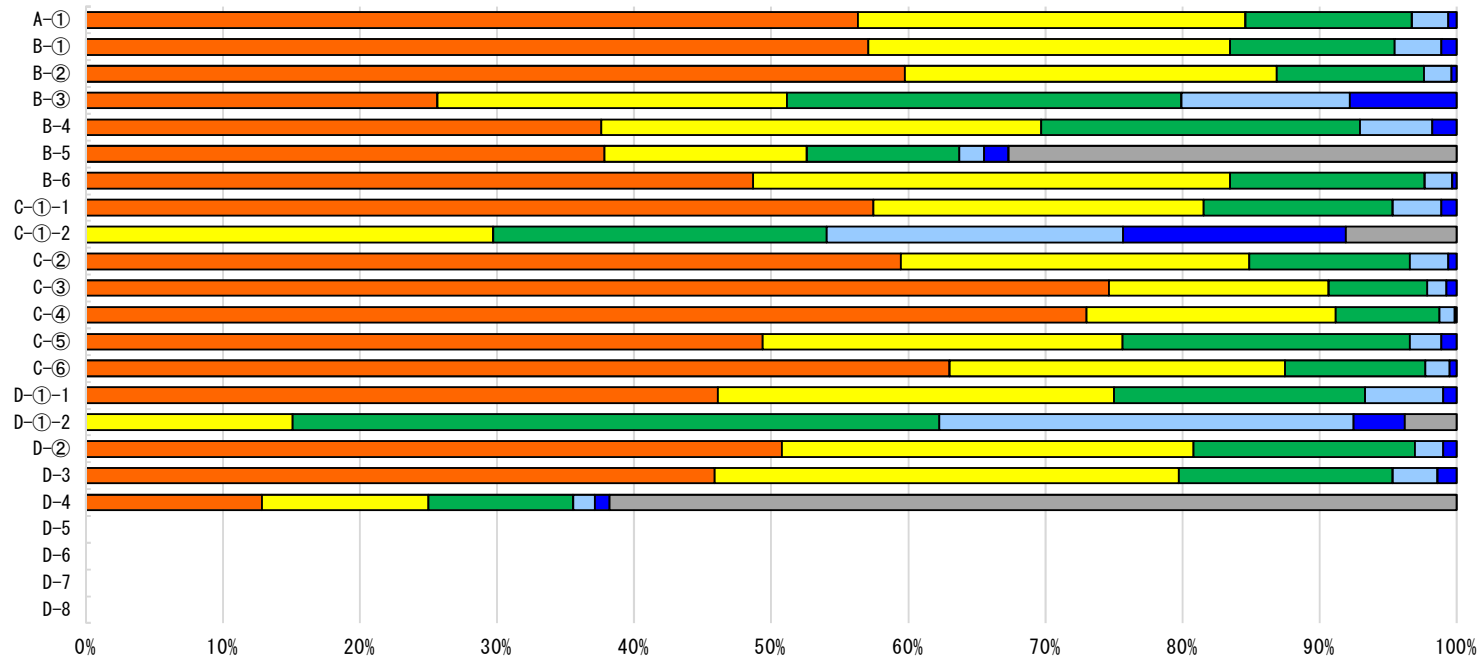
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	461	---	---
21生	208	---	---
20生	65	---	---
19生以前	55	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	792	2,038	39%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	446	224	96	21	5	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	452	209	95	27	9	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	473	215	85	16	3	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	203	202	228	97	62	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	298	254	184	42	14	0	4.0	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	272	106	80	13	13	235	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	312	223	91	13	2	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	455	191	109	28	9	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 11	少し早い 9	少し遅い 8	遅すぎる 6	未答 3		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	471	201	93	22	5	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	591	127	57	11	6	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	578	144	60	9	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	391	208	166	18	9	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	499	194	81	14	4	0	4.5	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	365	229	145	45	8	0	4.1	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 8	少し高い 25	少し低い 16	低すぎる 2	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	402	238	128	16	8	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	294	217	100	21	9	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	73	69	60	9	6	351	3.9	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	4学部共通

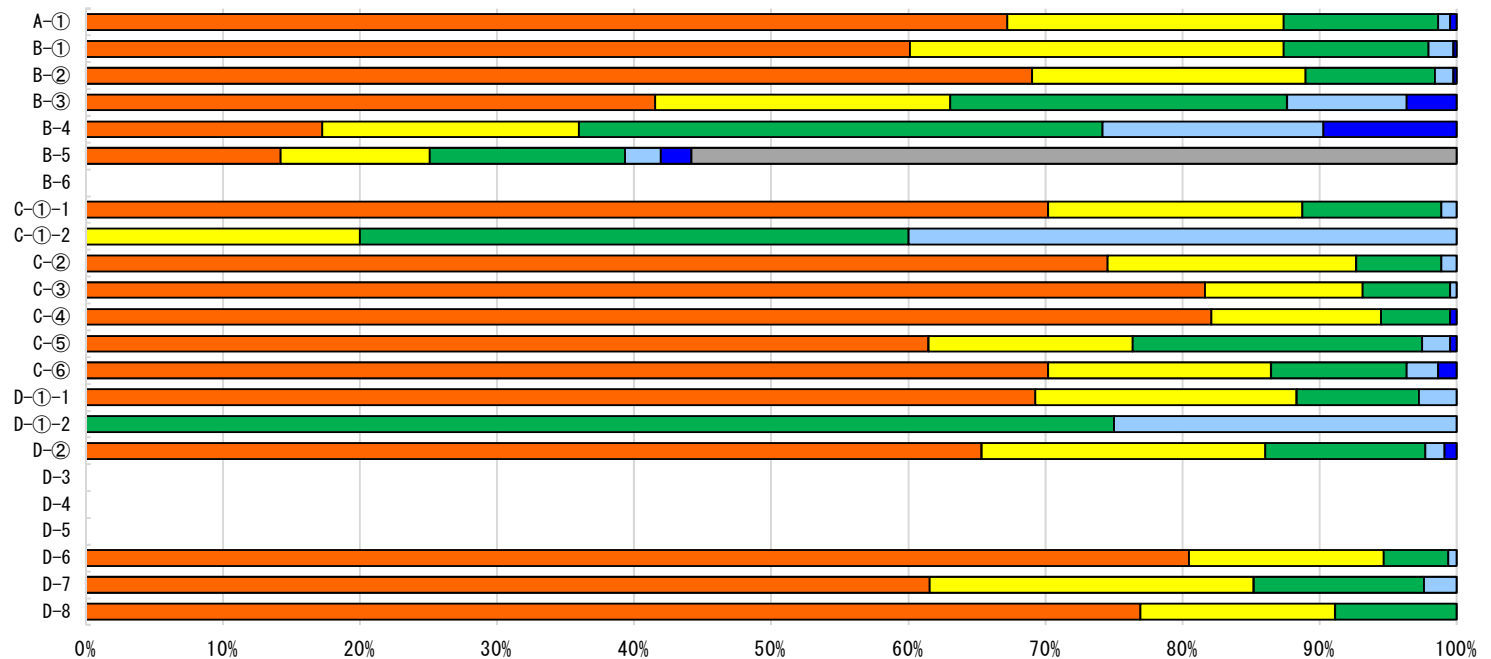
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	325	---	---
21生	97	---	---
20生	11	---	---
19生以前	2	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	436	899	48%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	293	88	49	4	2	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	262	119	46	8	1	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	301	87	41	6	1	0	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	181	94	107	38	16	0	3.9	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	46	50	102	43	26	0	3.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	38	29	38	7	6	149	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	306	81	44	5	0	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 2	少し遅い 2	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	325	79	27	5	0	0	4.7	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	356	50	28	2	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	358	54	22	0	2	0	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	268	65	92	9	2	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	306	71	43	10	6	0	4.5	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	302	83	39	12	0	0	4.5	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 9	少し低い 3	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	285	90	51	6	4	0	4.5	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	136	24	8	1	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	104	40	21	4	0	0	4.4	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	130	24	15	0	0	0	4.7	4.7

<評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5)
 ■ややそう思う (4)
 ■普通 (3)
 ■あまりそう思わない (2)
 ■そうは思わない (1)
 ■未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLED

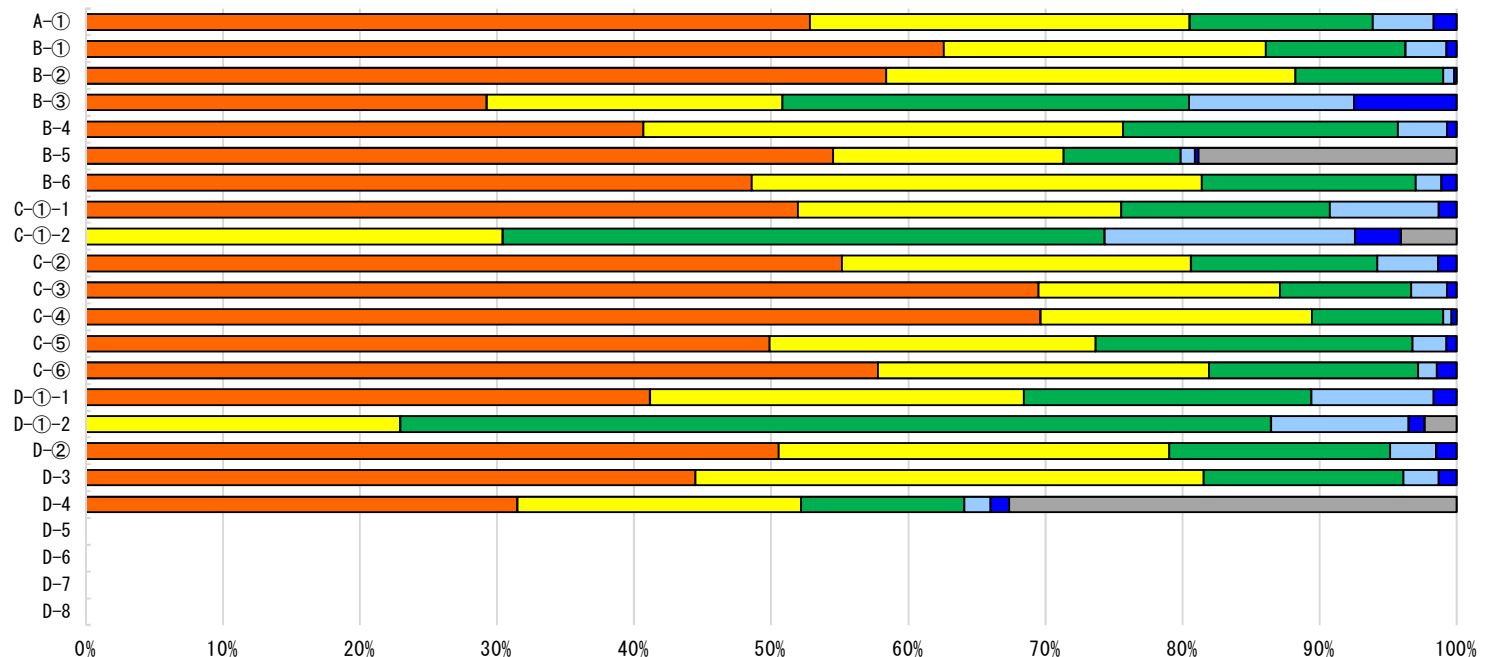
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	716	---	---
21生	589	---	---
20生	192	---	---
19生以前	103	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	1,603	4,384	37%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	847	444	214	71	27	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,003	377	163	48	12	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	936	478	173	13	3	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	469	346	475	193	120	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	652	561	321	58	11	0	4.1	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	874	269	137	17	4	302	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	779	526	250	30	18	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	833	378	244	127	21	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	884	408	218	71	22	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,114	282	154	42	11	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,116	318	153	10	6	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	800	381	370	40	12	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	926	387	245	22	23	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	660	437	336	143	27	0	4.0	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	810	457	258	54	24	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	713	594	234	41	21	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	505	331	191	31	22	523	4.2	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLAD

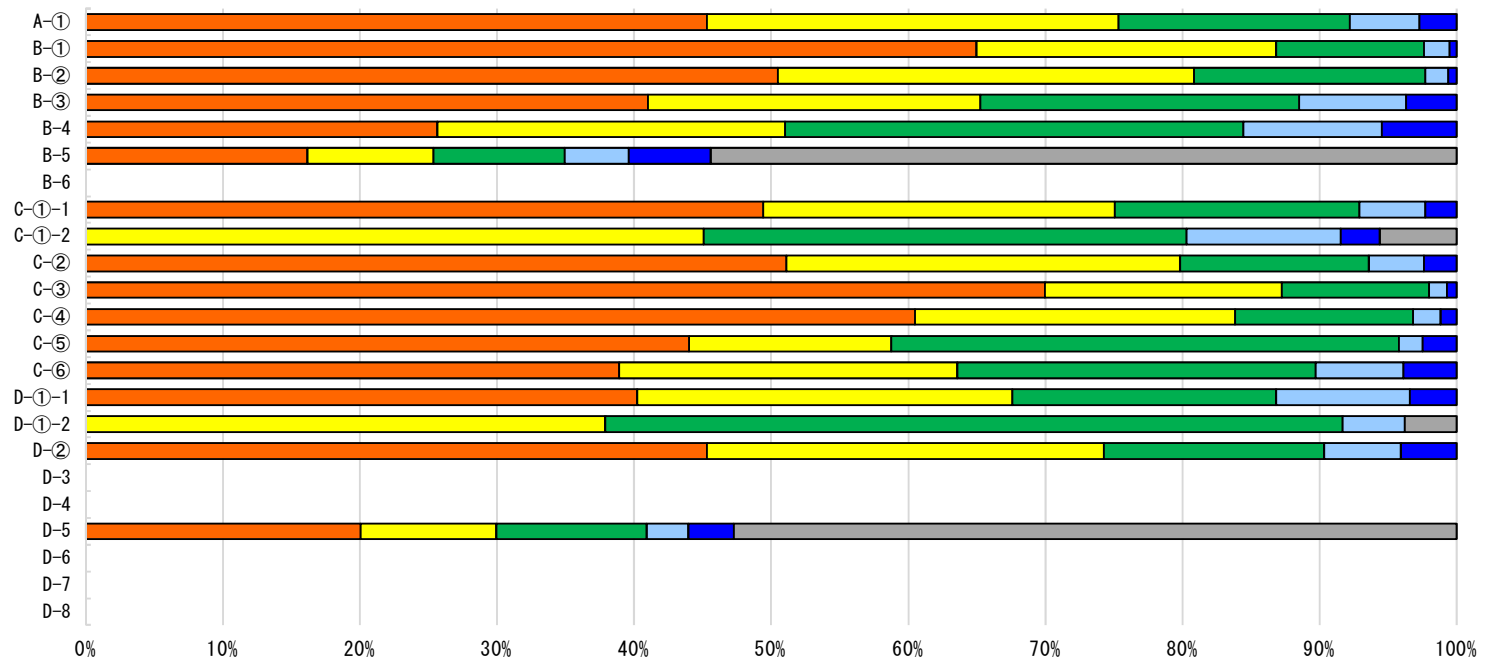
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	334	---	---
21生	442	---	---
20生	140	---	---
19生以前	68	---	---
その他	18	---	---
不明	0	---	---
合計	1,002	4,182	24%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	454	301	169	51	27	0	4.1	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	651	219	108	19	5	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	506	304	169	17	6	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	411	243	233	78	37	0	3.9	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	257	254	335	101	55	0	3.6	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	162	92	96	47	60	545	3.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	495	257	179	48	23	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 32	少し早い 25	少し遅い 8	遅すぎる 2	未答 4		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	512	288	138	40	24	0	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	701	173	108	13	7	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	606	234	130	20	12	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	441	148	371	17	25	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	390	247	262	64	39	0	3.9	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	403	274	193	98	34	0	3.9	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 50	少し高い 71	少し低い 6	低すぎる 0	未答 5		
D-② この授業に大変興味を持てた。	454	290	161	56	41	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	73	36	40	11	12	192	3.9	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	教職センター

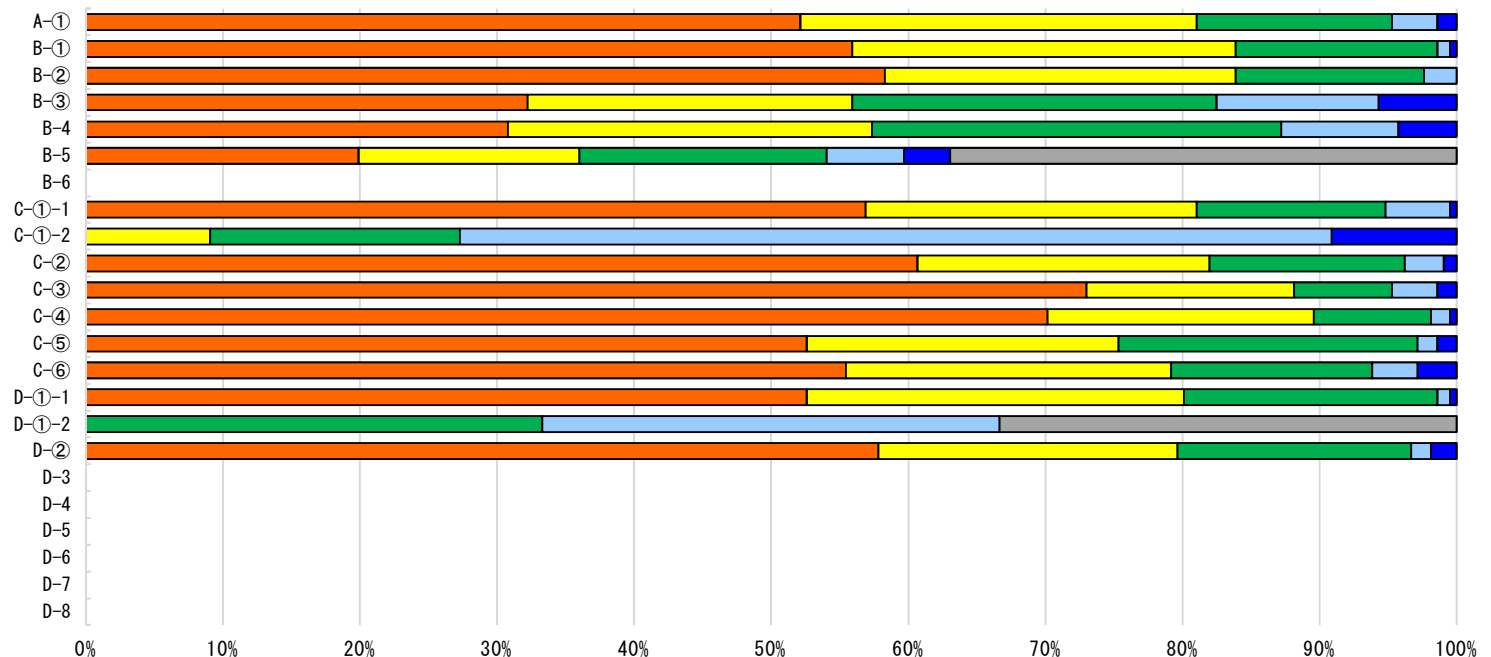
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	50	---	---
21生	57	---	---
20生	85	---	---
19生以前	14	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	211	829	25%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	110	61	30	7	3	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	118	59	31	2	1	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	123	54	29	5	0	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	68	50	56	25	12	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	65	56	63	18	9	0	3.7	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	42	34	38	12	7	78	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	120	51	29	10	1	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 2	少し遅い 7	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	128	45	30	6	2	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	154	32	15	7	3	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	148	41	18	3	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	111	48	46	3	3	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	117	50	31	7	6	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	111	58	39	2	1	0	4.3	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 1	少し低い 1	低すぎる 0	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	122	46	36	3	4	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	大学院

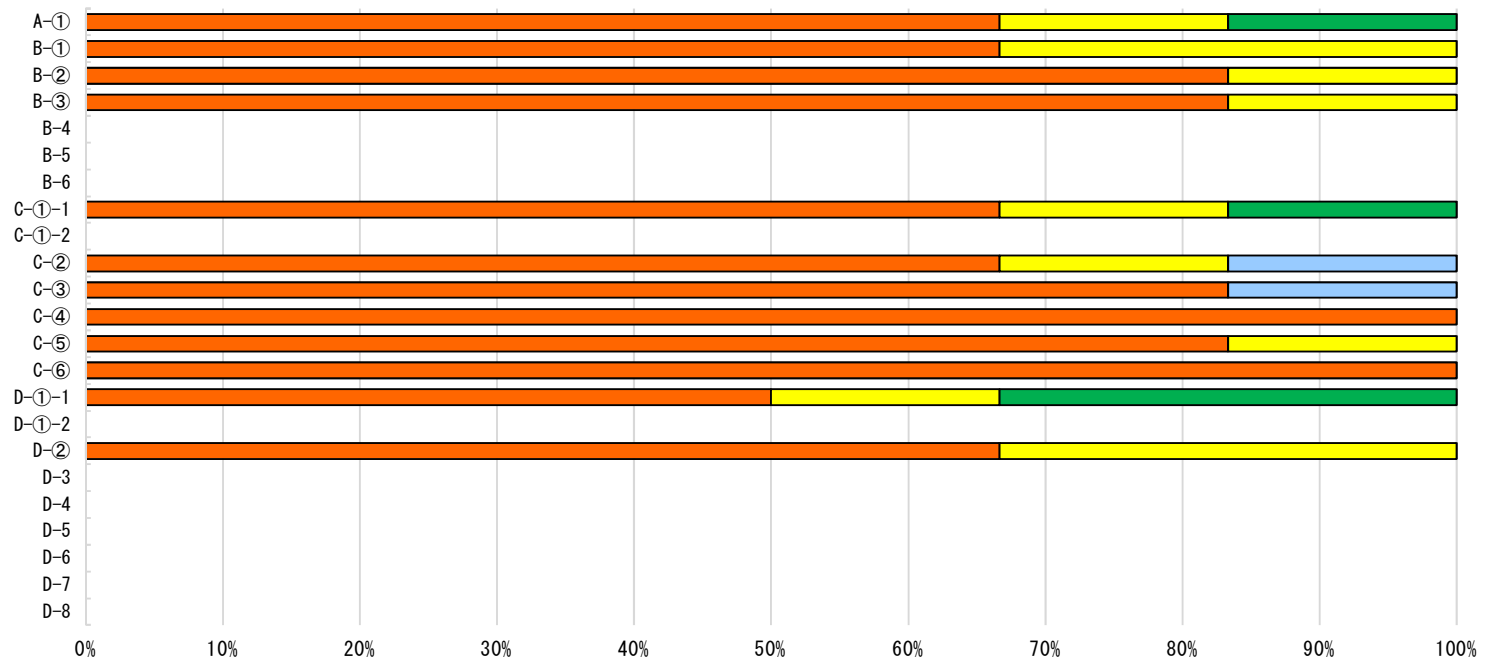
入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	0	---	---
21生	0	---	---
20生	0	---	---
19生以前	0	---	---
その他	6	---	---
不明	0	---	---
合計	6	25	24%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	4	1	1	0	0	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	4	2	0	0	0	0	4.7	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	5	1	0	0	0	0	4.8	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	5	1	0	0	0	0	4.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	4	1	1	0	0	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	4	1	0	1	0	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	5	0	0	1	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	6	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	5	1	0	0	0	0	4.8	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	6	0	0	0	0	0	5.0	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	3	1	2	0	0	0	4.2	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	4	2	0	0	0	0	4.7	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科 別科
集計名称	

入学年度	回答数	受講者数	回収率
22生	43	---	---
21生	0	---	---
20生	1	---	---
19生以前	0	---	---
その他	22	---	---
不明	0	---	---
合計	66	503	13%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	37	23	4	2	0	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	20	32	13	1	0	0	4.1	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	38	23	5	0	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	36	17	9	4	0	0	4.3	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	31	24	7	4	0	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	1	2	1	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	32	28	6	0	0	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	46	18	1	1	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	45	15	5	1	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	28	27	8	3	0	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	50	12	2	2	0	0	4.7	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	40	16	7	3	0	0	4.4	4.1
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		1	0	2	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	39	19	8	0	0	0	4.5	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.9
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

<評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5) ■ややそう思う (4) ■普通 (3) ■あまりそう思わない (2) ■そうは思わない (1) ■未答

